

一般社団法人

建設コンサルタンツ協会 東北支部

JCCA TOHOKU

明日への風、
東北から



vol. **63**
支部だより 2021.10

目次

Vol.63

| | | |
|--|--------|----|
| ・ 巻頭言 「復興10年の歩みとこれからの県土づくり」……岩手県 県土整備部長 | 田中 隆司 | 1 |
| ・ 特集1 i-Construction大賞 受賞特集 「3次元デジタル技術を活用した高速道路法面崩落の早期復旧対応」 ……中央復建コンサルタンツ(株) | 井上 裕司 | 3 |
| ・ 特集2 みちのくi-Construction 奨励賞 受賞特集 「ASPを利用した地質調査における遠隔臨場の試み」 ……(株)アサノ大成基礎エンジニアリング | 倉田 力 | 5 |
| ・ 特集3 「建設DXについて ～インフラ分野のDXにおいてコンサルタントに求められる動きとは～」 ……(株)双葉建設コンサルタント | 海藤 剛 | 7 |
| ・ 海外紀行 「秘境・パプアニューギニア」……(株)長大 | 白石 秀幸 | 9 |
| ・ 技術シリーズ 「気仙沼湾横断橋斜張橋部の設計」……大日本コンサルタント(株) | 竹田 竜一 | 13 |
| ・ 女性技術者の声 「業界で働き始めて感じたこと」……大日本コンサルタント(株) | 堀井 衿佳 | 15 |
| 「建設コンサルタント業界について思うこと」 ……(株)復建技術コンサルタント | 佐々木 瑞乃 | 16 |
| ・ 若手技術者の声 「2年の総括と3年目の意気込み」……八千代エンジニアリング(株) | 杉藤 溪太 | 17 |
| 「建設コンサルタント6年目で思うこと」……(株)菊池技研コンサルタント | 山田 龍 | 18 |
| ・ 技術士合格体験記……(株)建設技術研究所 | 佐藤 義明 | 19 |
| ・ 私の趣味 「現代に生きる恐竜たち」……(株)長大 | 日高 隼 | 20 |
| ・ ふるさと紹介 「福島ロボットテストフィールドの紹介」……(株)東コンサルタント | 黒澤 孝 | 23 |
| ・ 第19回(令和2年度)高校生「橋梁模型」作品発表会の開催報告 ……(株)長大 | 長南 憲一 | 26 |
| ・ 新規会員の紹介 「『社会資本の整備を通じて国家に寄与する公器』を目指して」 ……(株)東光コンサルタンツ | 藤縄 寛 | 28 |
| ・ 委員会紹介 「【技術部会 技術交流専門委員会】の紹介」 ……(株)復建技術コンサルタント | 今泉 敏郎 | 30 |
| ・ 我ら、建コン若手の会！！ 「東北支部 若手の会 活動紹介」……(株)三協技術 | 佐々木香菜子 | 31 |
| ・ 特集 「E E東北'21について」……(株)ダイエツ | 樋口 章大 | 33 |
| 令和3年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 局長表彰 一覧…… | | 37 |
| 令和3年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 事務所長表彰 一覧…… | | 39 |
| 令和2年度 東北支部会員 i-construction関係 受賞者 …… | | 45 |
| ・ 令和3年度講演会のお知らせ…… | | 46 |
| ・ 事務局より 『事務局長離任にあたって』……前事務局長 | 新野 俊晴 | 47 |
| 『事務局長就任にあたって』……事務局長 | 淀川 政晴 | 48 |
| JCCA TOHOKU 寄稿文募集 …… | | 49 |
| ・ 支部活動報告 令和3年度「建設コンサルタントの要望と提案」意見交換会…… | | 50 |
| 9月1日「災害時対応演習」(リモート)を実施 …… | | 51 |
| ・ 支部だより…… | | 52 |
| ・ 東北支部 会員名簿…… | | 56 |
| ・ 編集後記……広報委員 | 遠藤 康郎 | 58 |



復興10年の歩みとこれからの県土づくり

岩手県 県土整備部長 田中 隆司

1 はじめに

去る7月に発生した静岡県熱海市の大規模な土石流で犠牲になられた方々に、心から哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われたすべての皆様にお見舞い申し上げます。

また、一般社団法人建設コンサルタンツ協会東北支部の皆様には、日頃から公共事業推進の重要な担い手として、社会資本の整備や災害復旧に多大な御尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

2 東日本大震災津波から10年の取組

東日本大震災津波の発生から10年が経過しました。この間、県内外の多くの皆様からの温かい御支援、御協力をいただきながら、着実に復興への歩みを進めてきました。

最も大きな被害を受けた地域の一つである陸前高田市では、延長2kmに及ぶ高さT.P.+12.5mの海岸防潮堤や気仙川水門等の整備が完成、消失した高田海岸の砂浜も再生し、本年7月に11年ぶりに海開きを行うことができました。



高田海岸海開き当日の様子（陸前高田市）

また、災害公営住宅は昨年12月までに全5,833戸が完成し、本年3月までに応急仮設住宅等に入居していた全ての方々が恒久的な住宅に移ることができました。

復興道路の整備では、三陸沿岸道路が普代村から仙台市まで開通し、残る25kmも年内の完成が予定されているほか、復興支援道路である宮古盛岡横断道路は全区間開通し、盛岡市と宮古市の時間距離が30分短縮されるなど、ハード整備は着実に進み、その整備効果が現れています。



県施工で最大戸数の栃ヶ沢団地（陸前高田市）
平成28年6月完成

一方で、まちづくり連携道路や防潮堤など、一部の社会資本では第1期復興・創生期間内に完了できなかったものもあります。第2期復興・創生期間の初年度となる今年度は、これらの一日も早い完成に向けて残る工事を推進するとともに、こころのケアや新たなコミュニティ形成支援など被災者に寄り添ったソフト対策にも引き続き取り組んでいきます。

3 物流や広域観光を支える道路ネットワークの整備

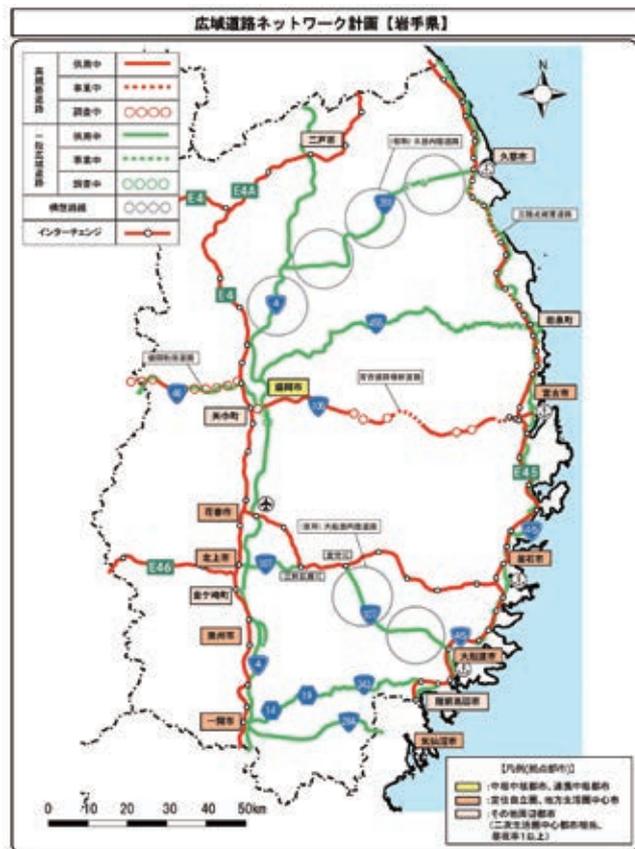
今年は、「平泉」が世界遺産に登録されてから10年の節目の年でもあります。この節目の年に、一戸町の御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、本県3箇所目となる世界遺産に登録されました（3つの世界文化遺産がある都道府県は、岩手県と奈良県だけです）。これらの世界遺産を始め、本県には三陸復興国立公園など国内外に誇れる数多くの観光資源がありますが、この資源と復興道路等のネットワー

クを活かし、交流人口の拡大など地方創生に繋げていくことが重要です。



御所野遺跡（一戸町）
世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」

また、本県には4つの重要港湾がありますが、港湾がその機能を十分に発揮し、内陸部の自動車や半導体を中心とした産業集積地が更に発展していくためには、港湾と内陸部を結び物流を支える道路の整備が重要です。



広域道路ネットワーク計画図

国のリーディングプロジェクトとして整備が進められてきた復興道路等の高規格道路ネットワークは概ね完成していますが、これらを補完する一般道には、未だ整備が必要な区間が多く残っています。このため、本年6月に中長期的な道路ネットワークの方向性を示す岩手県新広域道路交通計画を策定しました。今後、この計画も踏まえ、道路整備を推進していくこととしています。

4 第2期岩手県国土強靱化地域計画

本県では、昨年12月、令和元年台風第19号災害や新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた、第2期岩手県国土強靱化地域計画を策定しました。

気候変動の影響などにより、近年、自然災害は、激甚化・頻発化しており、毎年、命が失われるような大規模な自然災害が発生しています。本県でも、東日本大震災津波以降、平成25年7月豪雨、平成28年台風第10号、令和元年台風第19号と、度重なる自然災害に見舞われており、自然災害に備えた社会インフラの整備や維持管理の重要性・緊急性は、ますます高まっています。

第2期岩手県国土強靱化地域計画では、流域のあらゆる主体が協働して取り組む「流域治水」による治水対策や、砂防堰堤における堆積土砂の撤去などの新規項目を含む事前防災の取組のほか、公共施設等総合管理計画に基づく公共土木施設の個別施設計画を定め、計画的で効率的な予防保全型の維持管理を推進していくこととしており、今年度を初年度とする「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の予算等を活用しながら、これらの公共事業を推進していくこととしています。

5 終わりに

ここで一例を紹介した社会資本の整備と維持管理のほか、災害発生時の初動から復旧までの取組など、県土整備部の施策の推進には、貴協会及び会員各位の高度な知識と技術力に基づく提案や助言が不可欠です。

今後とも、本県の県土整備行政の推進に、なお一層の御支援と御協力をいただきますようお願いします。

国土交通省令和2年度 i-Construction 大賞
i-Construction 推進コンソーシアム会員の取組部門 優秀賞受賞

— 3次元デジタル技術を活用した高速道路法面崩落の早期復旧対応 —

中央復建コンサルタンツ株式会社 井上裕司

弊社は、中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社と取り組んだ「3次元デジタル技術を活用した高速道路法面崩落の早期復旧対応」にて、国土交通省令和2年度i-Construction大賞i-Construction推進コンソーシアム会員の取組部門「優秀賞」を受賞しました（図-1）。この案件は、中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社からの受託業務として取り組んだものです。関係者の皆様にはこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

去る令和元（2019）年10月12日、台風19号による豪雨によって首都圏中央連絡自動車道八王子西インターチェンジ付近で切土法面が崩落しました（図-2上段左）。切土法面の崩落直後、中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京は被災現場にドローンを飛行させ、上空から切土法面の崩落状況を撮影しました（図-2上段右）。その後、弊社にドローンにて撮影した崩落現場の2次元画像からSfM（Structure from Motion）と呼ばれる技術を用いて3次元の点群データを生成し、崩落土量を求められないかとの打診がありました。

当時、弊社は中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京からの発注業務（件名：2019年度 新東名高速道路3Dモデル活用検討支援作業）を受託しており、この業務において9月1日の防災の日に合わせて、法面崩落を想定したSfMによる3次元点群データの生成と崩落土量の算出を試行したところでした。偶然にもこの1か月後に実際に豪雨による法面崩落が発生し、試行した取り組みを実践することになりました。

弊社は、中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京から送信された10枚の撮影画像から2種類のSfMアプリケーションを用いて3次元点群の生成を試みました。中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京から送信された画像は、SfMにて3次元点群データを生成することを目的に撮影したものではなかったため、初めは3次元点群データが生成できませんでしたが、試行錯誤の結果、何とか3次元点群データを生成することができました。被災現場は被災前に航空レーザープロファイラーにて地表面の3次元点群データが取得されていたため、SfMにて生成した被災後の3次元点群データと航空レーザープロファイラーにて取得されていた被災前の3次元点群データから被災前後における地表面形状を3次元でモデル化し、その差分からコンピューターにて概算の崩落土量を算出しました（図-2中下段）。

今回の案件では、法面崩落の被災写真を撮影した場所は東京都八王子市でしたが、崩落土量は弊社の本社所在地である大阪府大阪市にて算出しました。すでに、インターネットが普及し、通信できるデータ容量は以前と比べて飛躍的に向上しています。そのため、インターネットに接続できれば、今回の案件で用いた手法は国内のどこからでも同じように対応することが可能です。これからは、5G（第5世代移動通信システム）の普及に伴い、デジタルデータの活用に物理的な距離の問題はほぼ無くなると思われます。弊社では、引き続きICTによるデジタルデータの有効活用に取り組み、インフラの安全・安心に貢献します。



図-1 ウェブ形式にておこなわれた令和2年度のi-Construction大賞表彰式
 ※左：国土交通省 大西英男副大臣 右：中央復建コンサルタンツ(株) 兼塚社長

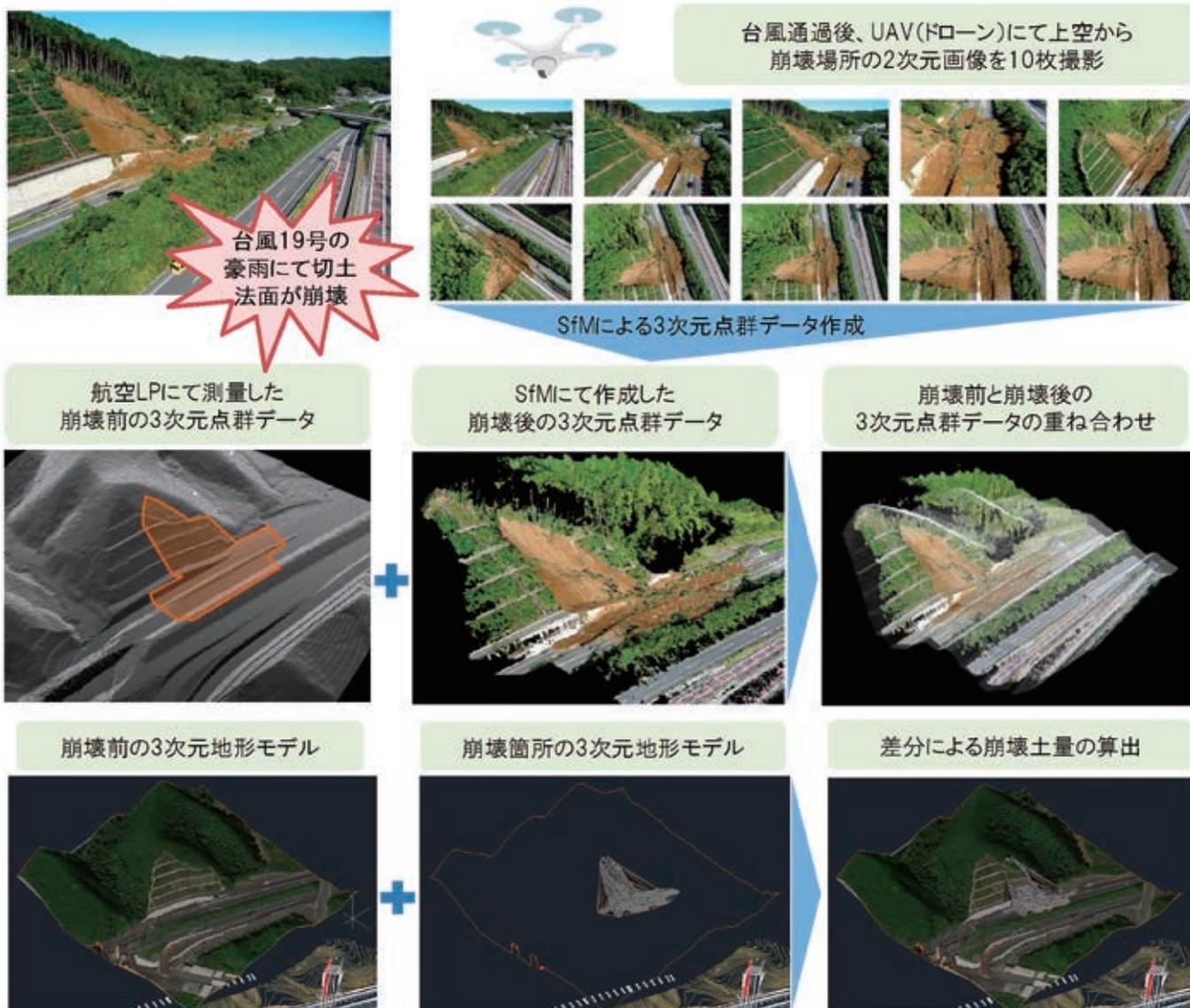


図-2 SfMによる3次元点群データの生成と崩落土量の算出
 ※上段左：切土法面の崩壊状況 上段右：ドローンにて撮影された2次元画像 中下段：3次元デジタルデータによる崩落土量の算出

ASP を利用した地質調査における遠隔臨場の試み

株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング 倉田 力

1. はじめに

昨今、業務効率化やコスト削減を目的にASP (Application Service Provider) 等のクラウドサービス利用している企業が増加している。ASPは、関係者が互いに作成した情報を「いつでも」「どこでも」検索、閲覧、取得できるようになり、業務の効率化、省力化を図ることができる利点がある。

このようなメリットを持つASPは、国土交通省の提唱する、BIM/CIMを活用した業務の要求事項（リクワイメント）選択項目のうち、「情報共有システムを活用した関係者間による情報連携」に該当する。「鳴瀬川総合開発付替国道下流部地質調査業務」では、地質調査における「生産性の向上」を目的としてASPを導入した。

ASPには、関係者がいつでも資料を閲覧できるファイルキャビネット機能や電子決済を有したワークフロー機能等様々な機能があるが、その中でもweb会議システムに着目した。web会議システムは、ASP上で会議室を開き関係者が離れていてもビデオ通話で打合せを行うことができるシステムである。このビデオ通話機能を用いて地質調査における検尺作業を遠隔で撮影し、検尺を遠隔で確認することで、業務の効率化につながると考えた。

2. 業務の特徴

本業務は、ダム建設に伴う付替道路における切土、盛土、橋梁、補強土、函渠に関する設計、施工に必要な基礎資料の取得を目的として地質調査（ボーリング36カ所）を実施したものである。



図1 遠隔臨場のイメージ図

通常、ボーリング調査は、調査目的を達成後、原則として監督職員が立会のうへ掘進長の確認（検尺）を行う。

しかし、本業務においては、発注者の常勤する工事事務所から調査現場までは、約32km離れている。さらに、調査地点の多くは山間地に位置しているため、1箇所当たり片道約80分の移動時間が生じる。また、本業務のボーリング総数は36本と非常に多い。

これらのことから、本業務の検尺をすべて現地で行う場合、発注者は検尺対応の移動時間、受注者は日程調整による待機時間が増加し、業務に占める割合が非常に多くなることが予想された。

3. ビデオ検尺の実施方法

前述の特徴をふまえ、移動時間の省力化及び現地作業の効率化、検尺内容の証拠能力向上を目的として、遠隔による立会（インターネットを利用したリアルタイム配信）と映像録画による「ビデオ検尺」を提案し、協議のうへ試行的に実施した。



図2 検尺撮影状況

ビデオ検尺は、映像録画とリアルタイム配信の2つで構成する。映像録画は、発注者が遠隔から確認する検尺作業一連を動画に収めることで、現地での確認に代わって客観性を確保する。リアルタイム配信は、Web会議システムを利用して現場と事務所をつなぎ、検尺作業をリアルタイムで確認するものである（図3）。

検尺作業を録画した映像は、ASP上に保存することで、いつでも検尺の成果を確認することができる。

リアルタイム配信する映像は、発注者が遠隔からリアルタイムで検尺作業を確認できる。さらに、リアルタイム配信の動画は配信と同時にASP上に保存されるため、後ほど映像の確認をすることも可能である。ただし、リアルタイム配信は、電波状況によって、配信映像の品質低下や、配信不連続を引き起こす可能性があるため、注意が必要である。

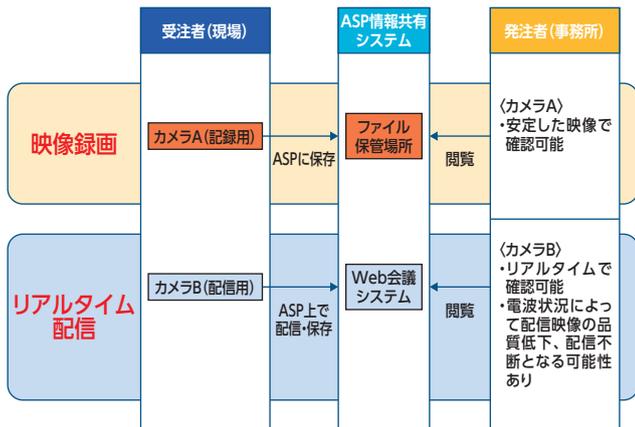


図3 ビデオ検尺概要図

検尺の撮影は、映像録画を目的としたウェアラブルカメラと、リアルタイム配信を目的としたスマートフォンを使用した。なお、双方の撮影開始・終了のタイミングは同じとし、検尺作業中の安全面を考慮して移動しながらの撮影は基本的に行わず、全体を俯瞰できる位置にて定点撮影を行った。

下表に、ビデオ検尺で使用した機材の一覧を整理した。

表1 ビデオ検尺使用機器一覧

| 項目 | 使用機器 |
|---------------|-------------------------------|
| カメラ(映像録画) | GoPro社製 GoProHERO 7B |
| カメラ(リアルタイム配信) | Apple社製 iphone 7 |
| 配信システム | 川田テクノシステム 情報共有サービス [basepage] |

4. ビデオ検尺の実施結果

本業務においてビデオ検尺を試行的に実施した結果を項目ごとにまとめる。

●発注者側の所要時間の減少(利点)

リアルタイム配信を基本としたときのビデオ検尺の所要時間は約20~30分であった。よって、ビデオ検尺導入により通常の検尺立会(移動時間を含めて3時間程度)の10~15%の時間で検尺が可能となった(図4)。

このことから、ビデオ検尺は「監督業務の省力化」に有効である。

●受注者側の所要時間の減少(利点)

立会日程調整による待機時間が減少したことから受注者側における「現地作業の効率化」にも十分な効果があった。

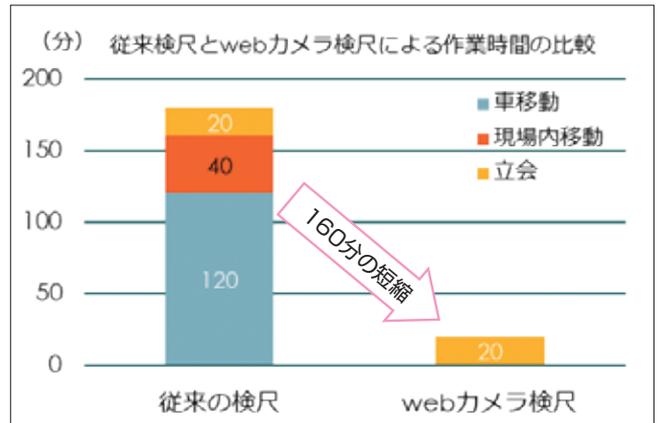


図4 従来とweb検尺の所要時間比較図

5. ビデオ検尺の標準化

本業務において、リアルタイム配信と映像録画によるビデオ検尺を試行的に実施した内容を手順書として整理した(図5)。特に作業内容(確認方法、手順、客観性)を中心に整理を行った。

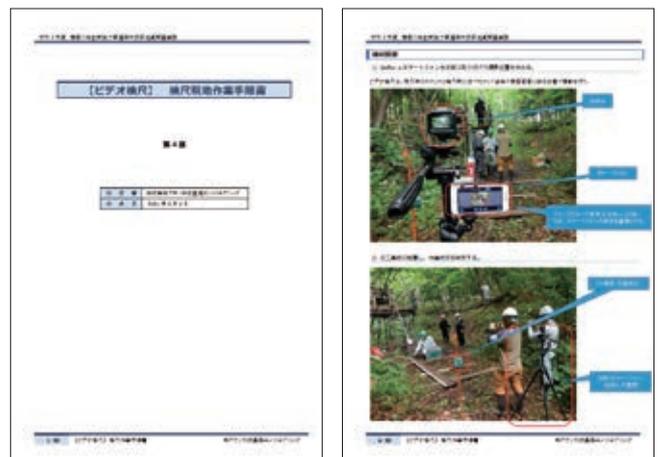


図5 ビデオ検尺手順書

6. 終わりに

地質調査業務における遠隔臨場の手法を進めるため、受発注者ともに手探り状態でのスタートだったが、新たな手法を確立することができたと感じる。業務を通じて協働いただいた鳴瀬川総合開発工事事務所の方々へ厚く御礼を申し上げます。

建設 DX について ～インフラ分野の DX においてコンサルタントに求められる動きとは～

株式会社双葉建設コンサルタント 海 藤 剛

1. はじめに

建設DX（デジタル・トランスフォーメーション）が加速している。その背景として、一つは建設現場特有の人手不足や担い手不足などの課題が挙げられているが、一方で新型コロナ対応や「非接触型・リモート化」の働き方、デジタル庁の発足に見るような社会経済情勢の変化も一因とされている。

政府では「科学技術イノベーションが拓く新たな社会」として、Society5.0による人間中心の社会を目標に、先端技術を取り入れ、イノベーションから新たな価値が創造されることにより質の高い生活を送ることを目指している。

このような中、インフラ分野において我々建設コンサルタントはどのような動きが求められるのか、またどのようにして対応していくことで、この社会の変化に対応ができるようになっていくのかを考えてみる。

2. 国交省による DX の考え方

国交省ではインフラ分野のDXを以下のように定義づけており、その分野ごとに具体的なアクションを制定している。

○社会経済状況の激しい変化に対応し、インフラ分野においてもデータとデジタル技術を活用して、国民のニーズを基に社会資本や公共サービスを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、建設業や国土交通省の文化・風土や働き方を変革し、インフラへの国民理解を促進すると共に、安全・安心で豊かな生活を実現

上記のDXを実現するため下記の3つに分類し具体的なアクションを示している。(図1)

- ①「行動」のDX どこでも可能な現場確認
- ②「知識・経験」のDX 誰でもすぐに現場で活躍
- ③「モノ」のDX 誰もが簡単に図面を理解

具体的なアクションとしては図2に示す通り、

- ①行政手続きや暮らしにおけるサービスの変革
- ②ロボット・AI等活用で人を支援し、現場の安全性や効率性を向上
- ③デジタルデータを活用し仕事のプロセスや働き方を変革に分類され、それを実現可能とする活用環境についても整理されている。

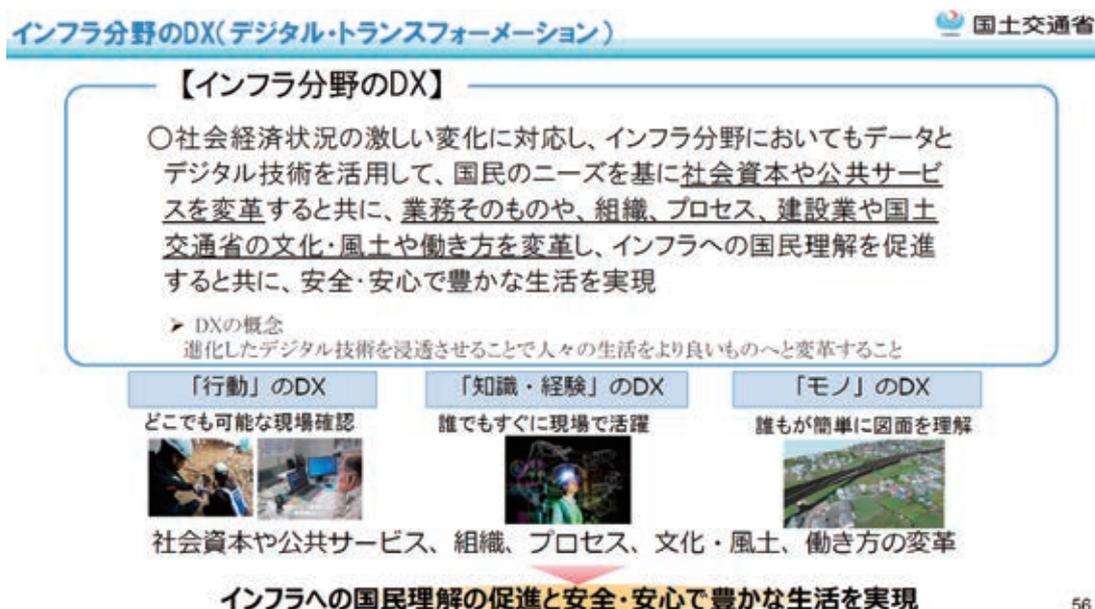


図1 インフラ分野のDXの定義



図2 インフラ分野のDX（具体的なアクション）

3. 建設コンサルタント協会東北支部の取り組み

国交省では、上記のように具体的なアクションを掲げ、令和7年度までの目標を具体的施策ごとにロードマップが示されているが、東北支部ではどのような動きをされているのか東北支部小澤情報部会長に聞いてみました。

広報：建設コンサルタント協会情報部会では建設DXについてどのような活動をされておりますか？

小澤部会長

国交省が掲げる2023年度のBIM/CIM原則適用に向けて、協会各社ではその体制構築を急ピッチで進めています。情報部会としても先進事例の情報共有、勉強会の場としてのセミナー開催を定期的に企画・開催するなどの普及活動に取り組んでいます。協会では建設DXの大きな柱の一つとしてBIM/CIMを捉えており、単に3次元設計というものでなく、設計から施工・維持管理へのプロセスを効率化する重要な役割を建設コンサルタントが担っていると考えています。

近い将来、3次元測量や点群データの取り扱いが容易となり、拡張現実ARや複合現実MR等の可視化・シミュレーション技術、さらにはAIやロボット等を活用した施設の管理点検・遠隔操作等、効率性や安全性をより追及した次世代社会が到来すると考えます。建設DXの実現に向けては、ハード・ソフトの環境づくり、そのパフォーマンスを活かす体制づくりが重要ではないでしょうか。

広報：ありがとうございます。それでは、このような時代の流れですが、今後我々が変革していくうえでどういったことが重要になると考えられますか。

小澤部会長

BIM/CIMへの取り組みをきっかけとした建設DXへの進化を目指す各種の技術開発、そして何より人材育成が必要と考えます。建設DXの将来は若手の育成と成長が鍵を握るといっても過言ではありません。若手に興味を持たせる、魅力ある建設コンサルタントというのが理想ではないでしょうか。各社で取り組む「作り手」と「使い手」の両面での人材育成を協会としても協力・支援して参ります。

広報：情報部会の今後の活動について

小澤部会長

協会東北支部では土木系学生向けパンフレット「建設コンサルタントという仕事」を作成し、将来を担う学生に建設コンサルタントの魅力を知っていただくリクルート活動を支援しています。建設DXは従来の生産プロセスを大きく変革し働き方をより効率化するなど、デジタル技術によるスマート社会の実現を目指すものです。建設コンサルタントの魅力を向上させる社会の実現に向けて、その一端を担う重責を改めて認識し取り組んで参りたいと考えます。

最後に

建設DXについて国交省並びに協会の対応について紹介していただきましたが、三次元測量やi-construction、BIM・CIM対応はもとより、何よりもこれまでの常識を常識にとらえず、変革していくというマインドが大事と感じました。実際作業をしている人からしてみると各種指針（設計指針や仕様書）はどうなるのか、色々不安な部分はあると思いますが、時代はそちらに向いていくことは変わりないと確信し、人材育成を含めた準備をしなくてはという想いを強くしました。

（広報委員：海藤）

秘境・パプアニューギニア

株式会社長大 白石 秀 幸

1. はじめに

2016年末から2019年の3月までの約2年半に渡り、JICA無償案件の常駐施工監理業務に伴い、パプアニューギニア独立国（Papua New Guinea：以下、PNG）のニューブリテン島に滞在していた。日本ではあまり馴染みのないPNG・ニューブリテン島の魅力を少し紹介する。



写1-宿舎上空から撮影

2. PNG・ニューブリテン島の概要

1) PNG

人口：約716万人

面積：約46.2万km²（日本の約1.25倍）、700を超える島嶼より構成

首都：ポートモレスビー（Port Moresby、以下POM）

言語：英語、ピジン語（その他800を超える現地語）

時差：日本+1時間（UTC+10）

宗教：キリスト教、その他伝統信仰も残っている

通貨：キナ・トヤ 1K=約31円

スポーツ：ラグビー

2) ニューブリテン島

人口：約40万人

面積：3.7万km²（九州とほぼ同じ）

州都：キンベ（Kimbe：西ニューブリテン州）

ラバウル（Rabaul：東ニューブリテン州）

ニューブリテン島は東・西ニューブリテン州の2州で構成、筆者はキンベに滞在。

産業：パーム油（世界6位）、林業等

在留邦人数：200名程度（赴任当時）



写2-PNG・ニューブリテン島位置図

なお、パプアとは現地語で「縮れた髪の毛」を意味する。

2.1. ニューブリテン島の気候

ニューブリテン島は南緯5度付近に位置し、熱帯雨林気候に属する。赤道に近いことからサイクロンは発生しないものの、キンベでは北西モンスーンを受ける12月～4月が雨季、5月～11月が乾季とされている。年間降水量が多く滞在時は4500mmにも上った。乾季中さえ東京の9月以上の降雨量を観測するため年中雨が多いという印象である。

気温は雨季・乾季とも大きな違いはなく最低気温は23度程度、最高気温は31度程度である。湿度は変動があるものの年平均で76%とかなり蒸し暑い。

一年中半袖で過ごせるというメリットはあるが、マラリアやデング熱もあるため、十分にエアコンで部屋を冷やし、長袖長ズボンで生活する方が筆者には適していた。

他方、現場での立会検査になると山奥へ移動することになるが、宿舎のあるキンベよりも暑く事務所の温

度計では40℃を超えることもしばしば、島内でも沿岸部は比較的過ごしやすい。

2.2. ニューブリテン島の交通事情

1) 入国・入島

日本からPNGへは成田から首都POMまで直行便が当時週1～2便運航していた（現在はCOVID-19により不明）。所要約7時間、直行便以外にはマニラや豪州経由などのルートもあった。

入国後、国内線に乗り継いでニューブリテン島の玄関口であるホスキンス空港まで所要約1時間半。沿岸部に位置し、離着陸時は眼下に広がる美しい海とサンゴ礁を眺めることができる。離島の小さな空港であるため手荷物検査など皆無である。



写3-ニューギニア航空 国内線機材

国内線は基本的に首都POMを発着起点としているため、ホスキンスまでは直行便の他、レイヤラバウル経由というフライトもある。しかし、これらのフライトは高確率で遅延・キャンセルが発生し、数時間の会議に出席するために3日も4日もかかったという方も少なくない。無事に離陸した際、乗客から拍手喝采が沸き起こったこともある。チェックイン時にも不具合が多く手書きの搭乗券を受領したこともあった。



写4-手書きの搭乗券（左）、キャンセル案内（右）

2) 島内移動

ホスキンス空港から州都キンペまでは約40km、車で40分程度である。街に信号機はない。

移動手段はマイカー（プロジェクト車両）、ホテルの送迎バス、一般バスの3種が主であるが、観光客はホテル送迎をお勧めする。地元のバスはワゴン車であり車体前後に番号が記入されているが、ルートを示す番号の意味は地元住民しかわからない。日本の空港で良く見かけるタクシー乗り場などはなく、そもそもタクシーという業種がニューブリテンにはない。

宿泊先から観光地への移動などは運転手付きのレンタカーが移動手段となる。

なお、道路の路面状態が非常に悪いためバイクはほとんど見かけない。西ニューブリテン州には総延長203kmの国道があるが70kmは未舗装区間である。

また、豪雨で頻繁に道路が寸断されることや、そもそも川に橋が架橋されていない箇所も多数あるため、車種は圧倒的にランドクルーザーが多く、次いで大人数が乗車できるピックアップ車も多数見かける。



写5-雨季になるとしばしば寸断されるイブレ川

車両は渡河する際に水を吸い込まないようにするため、吸気口が天井近くに配置されているシュノーケルタイプがほとんどである。



写6-シュノーケル付きランクル

2.3. ニューブリテン島の大自然

前述の通り豪雨による道路寸断も頻繁に起こるが、日本と同様の地震大国でもある。筆者が赴任していた期間にも度々地震が発生し、日本のメディアでも放送されるほどの比較的大規模な地震もあった。地震に関する情報を得るためにアプリをインストールするよう助言され、避難訓練も実施したほどである。滞在していた宿舎は海岸線に立地していたため、津波には最大の警戒を払ったが、運よく大半の震源は島の南側（逆側）であったため津波を受けることはなかった。

地震＝火山でもあるが、ニューブリテン島にも活火山が多数存在する。幸いにも滞在中にはなかったが、帰国した後に大規模噴火が発生した。噴火後は噴煙と火山灰（写9－右下参照）で空港が閉鎖されるなど多くの方に影響が出たとのことである。

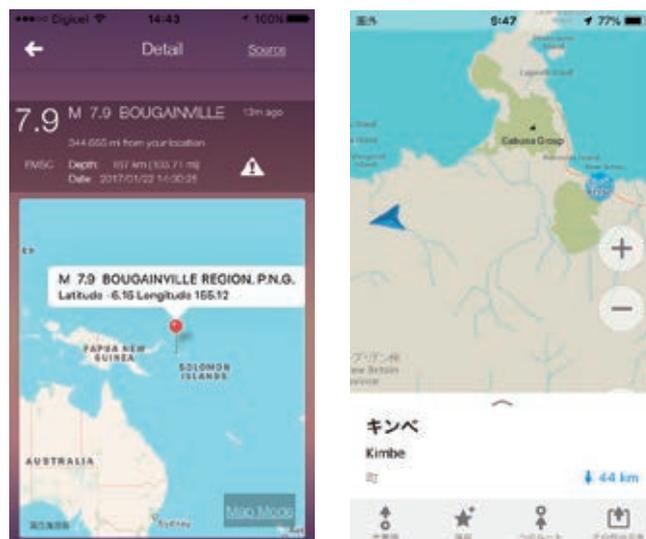
さらに、火山＝温泉であり、日本のような温泉旅館で滞在とはいかないが、大自然を満喫できる場所もある。キンベから車で2時間以上かかるところに、源泉が流れ込んでできた温泉混じりの河川がある。体感で水温35度くらいあり、長時間ゆったりと川の中で温泉を味わうことができる。ただし、流れも速いため岩場の窪地などに腰を下ろして温泉に打たれるよう注意が必要である。美肌効果？もあり、「源泉かけ流し」とはこのことである。PNGではバスタブのないホテル・宿舎が基本であるため河川とはいえ湯船に浸かれるのは長期滞在者にはありがたい。



写7－天然温泉

大自然のなか未開発なエリアも多いため、飲料水および生活用水は雨水を利用する家屋も多い。

なお大自然であるがゆえ、インターネットは国道脇ですら利用できないエリアもあり、停電もほぼ毎日発生する。ある意味、心が洗われる島でもある。



写8－地震アプリ（左）と圏外での地図アプリ（右）



写9－ニューブリテン島の大自然

2.4. ご当地グルメ

ニューブリテン島の主要産業の一つにパームオイル産業があるが、外資のパームオイル社は牧場なども経営している。肉牛は「キンベ牛」と言われ（勝手に言っている）現地では有名であり安価で購入できる。内臓を食す文化はあまりないようで、牛タンなどは一本丸ごと購入しても数百円程度である。

食肉は牛肉以外に鶏肉や豚肉もあるが、大自然環境で飼育されており、むしろ日本のものより美味に感じるかも知れない。逆に魚介類では冷凍加工物は出回っているものの、種類も少ないためあまり食す機会がなかった。ニューブリテンでは是非ともキンベ牛を食していただきたい。

現地ではSouth Pacific (SP) というビールが有名である。製造元はニュージーランドの会社であるが、PNG国内にも工場があり現地生産している。癖がな

く喉越しのよいビールであり価格も日本で販売されているものとあまり変わらない。他の酒類ではラム酒も国内製造しており比較的安価に販売されているが、輸入品となる洋酒などは日本の3倍程度の価格である。なお、お酒が入ると暴れる住民が多いため、酒屋は日曜店休と法律で定められている。ただし、レストランなどでは日曜でも提供されている。

PNGはコーヒーベルト地帯に属し、ブルーマウンテン他、風味豊かな品種が栽培され世界19位の生産量を誇る。POM空港の土産売り場やキンベ市内のスーパーマーケットでも格安で売られており、赴任中は毎日美味しいコーヒーをいただいた。

温泉に入り、キンベ牛のステーキをSPで流し込み、そして食後のコーヒーを是非ともお勧めする。



写10-キンベ牛Tボーンステーキと各種コーヒー

3. レジャー

ニューブリテン島全体で観光名所というのは数少ない。有名処としては、東ニューブリテンのラバウル・ココポであり、戦遺や戦没者の碑などがある。キンベを含む地方の街でも、やはり「海」が綺麗であるためマリンスポーツを含む海をエンジョイすることをお勧めする。

3.1. ダイビング

キンベから車で40分程度走ったところに日本人が滞在しているワリンディ・プランテーション・リゾートホテルがある。そこでは前述の温泉ツアーなどの申し込みもできるが、キンベ湾内のスキューバダイビングなども体験することもできる。

この湾内には太平洋戦争時に不時着したゼロ戦が眠っているため、ゼロ戦見たさにダイビングをする日本人観光客も多い。温泉近くには爆撃機も残存する。



写11-ドーリットル東京空襲と同型のB-25爆撃機

キンベには観光客が宿泊できるホテルは数件のみであるが、上記ホテルではキンベ牛ステーキ&SPも堪能可能である。

3.2. クルージング

潜らずに軽く泳ぎたいもしくは日光浴をしたいという方には湾内クルーズをお勧めする。前述のリゾートホテルで申し込みが出来る他、無人島への上陸ツアーも行うことができる。無人島で日光浴を楽しみ、BBQに舌鼓を打つのもよしである。



写12-無人島(左)と島北部のキンベ湾内(右)

湾内は一年を通して波がほとんどなく、晴天時や夕焼け時には更に美しい光景を望むことができる。



写13-宿舎から望むキンベ湾

4. 終わりに

PNGは戦後、豪州に統治され1975年に独立した若い国である。外資のプランテーションにより開拓が進んでいるものの、未開発のエリアも多く、秘境と呼べる大自然が今もなお多く残っている。

日本からも直行便で容易に訪れやすく時差も1時間しかないため、大自然を満喫、もしくは歴史、特に太平洋戦争に興味がある方にはお勧めの国である。

気仙沼湾横断橋斜張橋部の設計

大日本コンサルタント株式会社 竹田 竜一

1. はじめに

気仙沼湾横断橋は、三陸沿岸道路のうち気仙沼道路の一部となる橋長1,344.0mの橋梁です。このうち、気仙沼湾横断箇所にかかる海上部は、航路幅（船舶が航行できる幅員）230mを確保した上で湾内に主塔を1基配置した、橋長 $L=680.0\text{m}$ の3径間連続鋼斜張橋を採用しており、東北地方で最大の斜張橋となります。

本稿では、気仙沼湾横断橋斜張橋部の設計における特徴的な内容について概要を紹介します。

2. 要求性能の具体的な設定

斜張橋という構造的な特色、湾内に主塔が設置される架橋条件や緊急輸送路といった特徴を踏まえ、要求性能を部材毎に具体的に設定しました。要求性能の抽出にあたっては、「想定外地震時においても粘り強い構造とし、弱部の復旧が容易な構造」、「想定外事象によりケーブル1本が破断した場合でも橋全体の崩落を回避し、1車線通行可能な状態」等、想定外の事象についても踏み込んで整理し、設計に反映しています。

3. 維持管理への配慮

■耐風対策

ケーブルによる吊構造である斜張橋は、風による振動を抑制する耐風対策が必要となります。耐風対策としては、主桁側面に耐風安定を目的としたフェアリング・フラップ等の耐風付加物を配置した事例も多ありますが、耐風付加物自体の点検や補修といった維持管理性に課題があります。

よって、主桁断面形状を耐風安定性に優れた断面とし耐風付加物を設置しないことを要求性能としました。主桁断面形状は、耐風安定性に効果が確認されている六角形断面のモノボックス構造とし、動的風洞試験にて安全性を確認しています。また、主塔についても部材断面を面取りした八角形断面を採用し、主桁同様に動的風洞試験にて主塔架設時の耐風安定性を確保しています。

耐風付加物の省略は、維持管理上の課題解決に加え、シンプルかつスレンダーな外観構成となることで景観面にも効果が得られています。

■橋脚計画

橋脚は、L2津波時の漂流船舶を直接鋼製主塔に衝突させない方針として、RC柱の天端高を設定した中空式橋脚を採用しています。陸上部のP11橋脚は、地



写真1 気仙沼湾横断橋全景

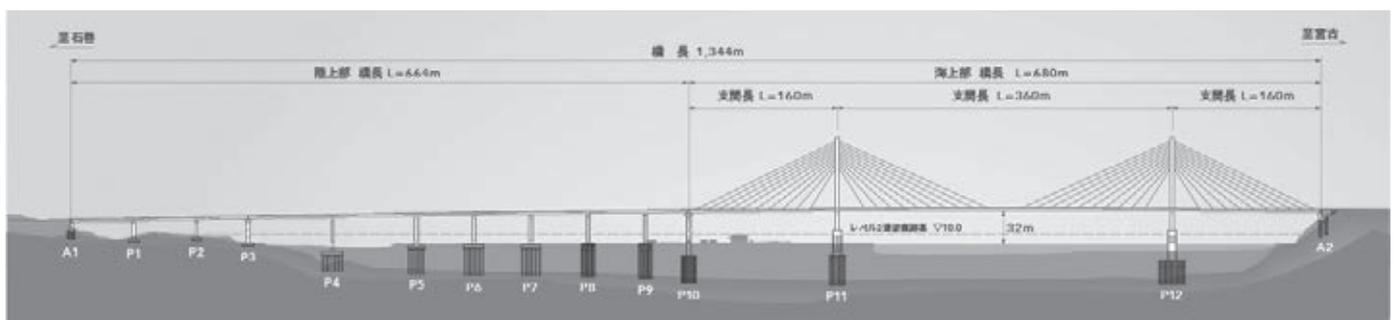


図1 気仙沼湾横断橋側面図



写真2 主桁風洞試験模型

下水位以下も中空断面とし、橋脚内部の点検や補修を目的とした橋脚内検査路を配置していますが、海上部のP12橋脚は貫通ひび割れが発生した場合の補修が困難であることから、海中部は充実断面としました。

また、耐久性の観点より、L1地震時には発生断面力をひび割れ耐力以下とする方針としましたが、単に鉄筋量を増加させる等の対応ではなく、隔壁を設けることにより対応し、経済性や施工性等の合理性を逸脱しない範囲で要求性能を満足させる計画としています。

4. 耐久性への配慮

鋼橋の部材連結は、施工性の観点よりボルト継手の採用事例が多いですが、ボルト継手部は腐食しやすい（ボルトや添接板の角の塗膜厚が薄くなるため）ことや、継手部から桁内への雨水や塩分の進入等が考えられ、耐久性上の弱部となります。本橋は、海上部であり塩害の影響も大きいことから、施工上ボルト継手が必要な箇所を除き、主桁及び主塔は溶接接合を採用しています。

塗装は、海上橋であり塩害の影響が大きいため、構造的に重要な箇所（隅角部、ケーブル定着部等）や耐久性上の弱部（桁端部、主塔付根、滞水しやすい箇所等）に金属溶射を併用した仕様としています。

5. リダンダンシー（冗長性）確保

車両の衝突や想定外の劣化損傷等による損傷破断及びケーブル交換時を想定し、任意の1本のケーブルが損傷した場合でも片側通行は確保できるように、ケーブル規格及び本数を決定しています。

また、1本のケーブル破断を起点として連鎖的に他のケーブルや部材が損傷し、落橋や倒壊するおそれがないかについても、ケーブル破断時の衝撃を考慮した動的照査にて安全性を確認しています。

6. ダメージコントロール設計

想定外の地震動を定量的に想定することは困難であることに加え、安全率を大きくする等の対応も合理性を欠いた設計となるため、道路橋示方書の地震入力波の強度を漸増させた非線形時刻歴応答解析（漸増動的解析IDA）実施し、損傷順序を考慮した想定外地震時の耐震性能評価を設計に取り入れ、想定外地震に対しても粘り強く倒壊等のリクスを軽減させる手法としています。

検討の結果、地震動の倍率が1.3倍程度で主塔部の支承破壊後に主桁が直接主塔に衝突し、主塔下部の柱が終局に至ることが判明しました。主桁の主塔への衝突が大きな要因であるため、支承破壊後に主桁の主塔への衝突を回避する目的で、主塔横梁上の主桁側に緩衝装置を設置し、支承台座を介して横梁と衝突させる構造に見直しを行っています。緩衝装置設置後は、支承破壊→主塔横梁損傷→主塔下柱の圧壊損傷に至る破壊順序となり、主塔圧壊損傷時の地震動の倍率は2.0倍程度（L2地震動の2倍程度までは倒壊しない）に改善され、損傷制御の効果が確認できました。

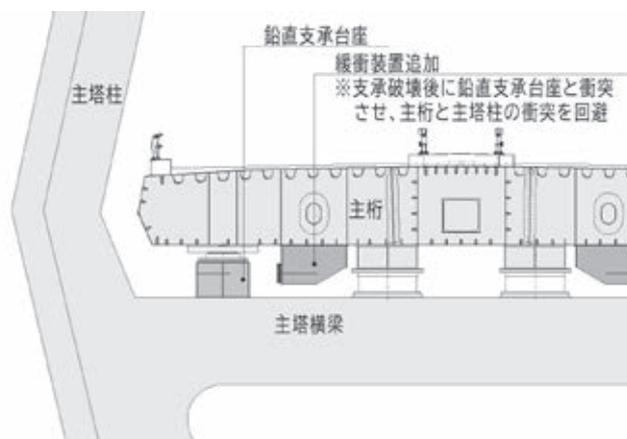


図2 ダメージコントロール対策図

7. 最後に

本橋は、現行設計基準を逸脱しない範囲で、「設計でどこまで想定するか」、「想定外に対してどのように設計に取り入れるか」等、真摯に設計と向き合い考えるということの重要性を強く認識させられる業務でした。

本橋の設計の取組が、橋梁設計に限らず社会インフラの計画設計の参考となれば幸いです。

業界で働き始めて感じたこと

大日本コンサルタント株式会社 堀井 衿佳

1. はじめに

入社から初めての繁忙期を経て、現在社会人として1年半を迎えようとしています。2011年3月、東日本大震災により地元一帯が大規模な液状化被害に遭い、そのまちが徐々に復旧していく日々を通して土木という分野に興味を持ちました。大学では地震防災に関する研究を行い、入社から現在は道路防災や地盤解析業務に携わっています。

2. 業務に携わって

入社当初、建設コンサルタントの事業についてはほんやりと理解しているものの、具体的な仕事内容や技術者の役割はあまり分からないまま仕事に取り組み始めましたが、「災害の時に一番初めに行動できて、問題解決のためにお客さんと一緒に考えられるのがうちの部署だよ。」という先輩の言葉が印象に残っており、これまでに何度もそれを実感してきました。2021年2月に発生した地震の際は点検班の一員として道路の緊急点検を実施しました。幸い甚大な被害は発生していませんでしたが、安全に通行できることを確認する、ということもインフラを保守する上で重要な役割であることを学びました。

少しずつ業務にも慣れはじめ、日々感じていることは「正しく伝える」ことの難しさです。自分が任された作業について上司や先輩に説明を求められた際に、内容が不足していたり、根拠について明確に回答できないことが何度もありました。技術的な専門知識や説明力、考え方のプロセスなど不足しているスキルをさらに習得し、適切な知識と分かりやすい説明をもって、相手の理解を得て手助けできる技術者を目指していきたいと思っています。

3. 働き始めて感じたこと

入社前に聞く業界の印象は「激務」という声が多く、体力的についていけるか、生活環境が変化する中でどれだけ勤められるか、といった不安を抱えていました。実際に働き始めると、「女性技術者」であることを特別に意識する機会は少なく、それだけ周囲の環境が充実しているように思います。産休・育休制度等を利用して働き続けている先輩や、社内の女性技術者の会が行う情報共有、周囲とのコミュニケーションにより入社前に抱いていた不安は大きく解消されました。

一方、体力・健康面の問題やライフイベントによる生活の影響、これらに対する制度が限定的に捉えられていないかという懸念もあります。就職活動時に訪問した企業では、休暇制度について学生全体への説明はあるものの、実際の活用例は個別に女性社員から女子学生へ紹介されることが多く、働き方環境の改善が進められていると感じつつも、男女間で環境の充実に差があるような印象も受けました。暮らし方や労働環境は日々変化しており、最近では新型コロナウイルス感染症の流行に伴い働き方の選択肢としてテレワークが当たり前になりました。現行の制度についても対象や活用方法を柔軟化し、必要とする人がいつでも利用できる環境にすることにより、「働き方改革」が実現できると思います。また、活用事例を広く紹介することで、業界全体での働き方改革推進や興味を持つ学生の業界理解にも繋げられると考えます。

業界の一員と言うにはまだまだ未熟ではありますが、自分にできることを考えながら、日々の業務や働きやすい環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。

建設コンサルタント業界について思うこと

株式会社復建技術コンサルタント 佐々木 瑞 乃

1. はじめに

入社してから5年目になりますが、振り返ればあっという間の4年間であり、月日の流れは本当に速いものだと感じています。

まだまだ技術力不足であり悩むことも多く、ひとつひとつの作業をこなすのに手一杯ではありますが、指導してくださる上司、先輩方のお力添えのおかげで日々前進していると感じています。

技術者として半人前ではございますが、今回このような機会をいただきましたので、建設コンサルタント業界について改めて考え、感じたことを執筆致します。

2. 業務に携わって感じたこと

私はこれまで河道計画、河川構造物設計、災害復旧等、主に河川に関する業務に携わってきました。大学でも河川に関する研究室に所属しており、河川関連の仕事に従事したいと考えておりましたので、現在このような仕事に携わることができ嬉しく思います。

業務を進めていく中で感じたことは、「自分の考えを相手に伝えること」の難しさと重要性です。例えば業務の打合せの際に、自分の考えが相手に正確に伝わらなければ業務をうまく進めることができません。専門知識や技術力ももちろんですが、アウトプットを的確に行う力は経験を積み養わなければいけないと思います。

また、体調管理も仕事のひとつであると考えます。災害時の急な要請による対応、繁忙期等、体力的にも負担が増える時期もあることから、日頃から体調を整えておくこと、時には息抜きをすることも必要です。

3. 業界について感じること

女性技術者は人数が少なく、家事や育児となるとやはり女性が主体となることから、どうしても「女性の働きやすい職場づくり」として着目されることが多いと感じますが、働きやすい職場づくりを目指すうえで性別は関係ないと考えます。

建設コンサルタント業界は他の業界と比べ、社会の変化に関わらず仕事ができる反面、その分革新の機会が少ないことや長時間労働等が課題に挙げられます。その中で、昨年から続いているコロナ禍等の影響により時差出勤や在宅勤務が実施されたことは、業界全体として働き方を改革するうえで大きなきっかけになることだと感じています。この機会を前向きに捉え、一時的なものにせず継続可能な環境を作ることができれば、男女に関わらず各個人の生活に合った多様的で柔軟な働き方ができると考えます。

働きやすい職場づくりに性別は関係ないと前述しましたが、女性技術者が少ない中で、近年女性技術者が増えてきていることは大変嬉しく感じています。技術者全員が働きやすい環境を整え、今後も建設コンサルタント業界を目指す女性が増えたらと思います。



休暇に訪れた温泉旅館の御膳

2年の総括と3年目の意気込み

八千代エンジニアリング株式会社 杉 藤 溪 太

1. はじめに

2019年に八千代エンジニアリングに入社し、早くも2年が過ぎました。大学院時代は地盤工学の研究室に在籍しており、入社してからは河川構造物設計の業務に携わっています。まだまだ不慣れなことが多いですが、上司や先輩に助けられながら日々精進しています。まずは、業務をこなせるようになることを目標に努力しています。

2. 今までの総括

入社してから2年間、技術者として河川構造物設計業務に携わり、建設業界の役割を身をもって体感しました。

一番印象的な思い出は、令和元年10月の台風19号による災害調査です。東北にきて1年目の時で、まだ河川に関する知識が浅かった頃に災害調査を担当することになりました。災害調査では、洪水による被害がいかに甚大であったのかを実感しました。河岸侵食や堤防の漏水、堤防の破堤など、様々な被害を見ました。調査する立場でありながら、水の勢いというのは凄まじいものであることを学ぶと同時に、甚大な洪水にも耐えうる構造を作らなければならないという意識を持つようになりました。災害調査の資料作成では、非常にタイトな工期のなか、被害状況をわかりやすく見せるための図、復旧工法の妥当性の検討資料など、河川の技術者と必要な知識を集約した資料作成を行いました。入社1年目ということもあり、資料作成は大変な作業でありましたが、先輩・上司の助けもあり、無事に完成させることができました。完成できた時の達成感は、今まで味わったことがないほど特別なものでした。この経験が、建設業界の役割を身を持って体感した出来事でした。

3. これからの意気込み

3年目の意気込みとして、今まで学んできたことを活かしつつ、新たな知識も増やし、技術者に磨きをかけていきたいです。

現在、河川構造物設計業務（堤防・樋管など）、堤防解析業務、電力関係といった多種多様な業務に従事しており、業務量の多さから大変な時期ではありますが、このような経験を経て良かったと思えるよう日々の業務に努めてきたいです。

4. おわりに

入社してから2年以上がたち、仕事や仙台での生活にも慣れてきました。しかし、この先も大変であった経験、上司や家族への感謝の気持ちを忘れず、人々の生活のために尽力していきたいと思えます。

また、ここ最近コロナの関係でできなくなってしまった懇親会や忘年会といったイベント事を実施できる日が早く来ることを切に願います。



【災害調査における被害状況測定の様子】

建設コンサルタント6年目で思うこと

株式会社菊池技研コンサルタント 山田 龍

1. はじめに

入社し6年目になりました。(転職組であり、社会人歴は9年目です。)設計技術者として、様々な設計業務を経験させていただいております。特に道路設計、維持管理関係の業務を担当することが多いです。今回このような貴重な機会をいただいたので、自分自身のことについて書きたいと思います。

2. 社会人として

建設コンサルタントの技術者の前に、社会人としてしっかり一人前になる必要があると、私は思います。

社会人1年目の最初のころ、私の面倒をよく見てくれた先輩から「最初は、何もできないのは当たり前だけど、できることを見つけて一生懸命やりな。まずは、電話番からだ」と言われたこと、今でも忘れません。与えられた仕事もちろん全力で行いますが、自分ができることを見つけて、積極的な姿勢で仕事に取り組むことの大切さを学びました。これまで、上司、先輩から多くのことを学びました。本当に感謝しかありません。

3. 技術者として

技術者としてまだまだ半人前にもなっていません。わからない分野も多く、慣れてきたと思っていた業務でも、「あれ?そもそもの考え方って…」となることがよくあります。技術力不足を感じる毎日です。これは、私だけではなく、今若手技術者としてがんばっている方々も同じ気持ちだと思いますし、尊敬するあの先輩・上司も、若手のころはそうだったはずです。千里の道も一歩から。ひとつひとつ、積み重ねていくしかありません。

そのために、普段から設計手法、工法や基準等について、その考え方は?といった深掘りをして、自分で納得して、技術を使うことを心掛けたいと思います。(上司、先輩に当たり前のことだろう!と言われそうですが)

また、課題解決力も技術者にとって重要な力だと感じています。目的を見失わず、課題を明確に、適確かつ多様な視点での解決策を考え…など、課題を確実に、そして円滑に解決していく進め方や考え方などを日々の業務を通して身に付けていきたいです。

4. ワークライフバランスの実現

残業が多いイメージのあった建設コンサルタント業界も、働き方改革関連法の改正により、本格的に働き方の見直しが必要となっています。当社でも、残業削減のみならず、働き方自体を見直す改革を実施しています。

青春時代を野球漬けで過ごした私にとって、ワークライフバランスを実現するためには、趣味を見つけることが課題となっていました。最近、ようやく趣味と言えるくらい続けているランニング(遅いですが)と登山に出会いました。デスクワークが多い仕事柄、外での活動はとてもよい気分転換になります。また、ランニングも登山も、目標が設定しやすいことがモチベーションになっています。これがワークライフバランスでしょうか?(笑)

5. これからの目標

まずは、なんと言っても技術士二次試験の突破です。私の尊敬する方のひとり右城猛さんの著書「土木技術に魅せられて 若手技術者に伝えたいこと(理工図書出版)」では、35歳までに技術士を取得できるよう準備することとありました。今年、31歳3回目の受験…結果は厳しいものになるだろうと思います。(泣)しかし、合格を勝ち取るまでがんばりたいと思います。技術士をはじめ各種資格試験への挑戦は、受験資格を得たら兎に角!です。若手技術者の皆さん一緒にがんばりましょう!

技術士合格体験記

株式会社建設技術研究所 佐藤 義明

1. はじめに

この度、数年間の受験を経て、技術士「建設部門 河川、砂防及び海岸・海洋」に合格いたしました。

これまでRCCMの有資格者として業務に携わってきましたが、土木技術者として造る業務成果と事業ならびに人生をさらに充実させるため、技術士資格合格に向けてあきらめず受験してきました。

技術士資格取得に向けた方法は各人様々だと思います。本稿では、今回の合格に向けて準備した対策や出会いと発見等について、一個人の体験談として紹介させていただきます。

2. 筆記試験

2.1 準備期間

私の試験準備の確保は、事前の約一週間を準備期間として集中的に確保するというものでした。(普段も少しずつではありますが対策を考えますが。)その間は頭の思考回路を業務とは完全に切り離します。

集中準備の休暇期間は、社内各員と業務関係担当者、ならびに発注者にはご迷惑をおかけしたものの、毎回手厚く応援して下さったことに感謝しております。

2.2 記述問題への対応

2.2.1 試験概要の再確認

これまでの社内・社外の講習会や受験用参考書籍では、試験評価項目やコンピテンシーの内容を理解できていませんでした。ふと、YouTubeによる試験対策ページを発見して視聴した結果、試験概要の再確認と理解できたことは、今回の大きな出会いでした。

2.2.2 記述問題対応の骨子の精査

私の記述論文の作成は、骨子法を用いました。これまでの記述問題回答のために積み上げてきた骨子を新たな改訂内容などの情報で更新し、試験評価項目とコンピテンシーに沿って再整理しました。回答論文は、『技術士として独り立ちしてプロジェクトを推進するための能力』をアピールするような構成を考えました。

2.2.3 課題の意味の再確認

記述問題で重要な『課題』の意味をこれまで捉えきれていませんでした。「……する必要がある」は『問題』であり、『様々な問題を把握・想定したうえでどのように推進していくか』を課題として記述できるように訓練しました。

記述方法が判ったため、これまで収集した情報や新規情報の再整理をして、受験用参考書籍や過去問に対する論点の構成を考える時間に多くを費やしました。

2.2.4 特徴を意識した記述問題への対応

必須問題は、例えば国土交通白書に記載されている施策や対策の必要性や背景を第一章から情報収集することで、設問の題意に適した問題と課題、解決策を提示するようにしました。

選択科目Ⅱ-1は、分野が治水計画、河道計画、河川構造物、ダム再生、土砂管理、浸水想定区域図、ハザードマップなどのソフト対策などと広範囲です。これらの特徴とプロジェクト実施時の流れ、配慮事項、調整、評価について、知識の反復学習と表現方法を研究しました。

選択科目Ⅱ-2は、プロポーザルの技術提案書の記述経験や業務計画書や業務遂行上の調整方法等の経験の活用で記述しやすくなりました。

選択科目Ⅲは、専門的な分野・範囲の問題を捉えて、精度向上させるべき対策や実施すべき対策、そのほかに取り入れるべき周辺技術情報に関する情報を収集しました。

3. 口頭試験

口頭試験については、コミュニケーション能力さえあれば良いと考えていました。社内とコンサルタンツ協会に合計3度の口頭模擬試験を実施していただきました。そこで答えた内容について、模擬試験間の指摘内容をもとに試験の要求事項と突合せした結果、口頭内容が方向違いであることに1か月前に気づきました。そこから、技術者倫理綱領をベースとした口頭試験対策を集中的に行いました。コミュニケーション、リーダーシップ、マネジメント、評価について、経験上の実施内容のアピールと反省・改善点を含めて個別の能力として説明できるように準備しました。

実際の口頭試験では、ご指導等を踏まえて準備したとおりの内容で、落ち着いて答えることができました。

4. おわりに

技術士二次試験については、これまで3度の試験制度を経験してきました。2019年変更前の必須(記述時代、択一時代)問題に対しては、情報収集する目標がしっかり見えていた感じがありました。変更後は、現状をはじめ政策や事業(業務)が与条件となる場合が多く、課題と解決策を自身で設定するためには広い範囲の情報収集と、技術的な掘り下げた課題と解決策を用意しなければならないと感じます。これらは通常業務の大なり小なりのプロジェクトや計算・作業のなかでも得られるものだともいわれています。有資格者となった後も考えていかなければならない事項です。

技術士資格合格によって、技術者の次のステップのスタートラインに立つことができました。

今後は、老若男女および様々な周辺技術分野の技術者の方々と共に研鑽しながら技術力向上に努め、社会の安心・安全を支えるための技術者集団の一員として、充実した日々を過ごしていきたいと感じております。

この場を借りて、これまで試験対策のご指導をいただきました諸先輩方、模擬面接を実施していただきました建設コンサルタンツ協会の皆様、そして長年応援していただきました社内・外の皆様に心より感謝申し上げます。

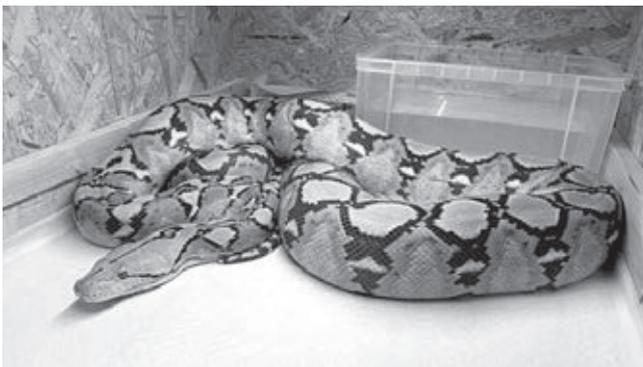
現代に生きる恐竜たち

株式会社長大 日 高 隼

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症が蔓延する世の中、自宅で過ごすことが増えた。これにより世間では家の中に癒しを求めてペットを飼う人が急増しているという。一般にペットといえば犬や猫、ウサギやハムスター等の生き物がイメージされるが、今回は少し個性的な生き物である「爬虫類」を紹介したい。

この記事執筆しているのは2021年7月であるが、神奈川県で起こった「アミメニシキヘビ脱走事件」がまだ記憶に新しい。メディアで取り上げられる人々の反応からもわかるように、ヘビをはじめとする爬虫類の世間のイメージは「狂暴」、「有毒」、「不気味」などマイナスのものが多数である。私自身爬虫類を飼育している身であるため、この記事を通して少しでも爬虫類に対するマイナスイメージが払拭できれば幸いである。



アミメニシキヘビ参考写真（読売新聞）

2. 爬虫類の魅力

個人的に魅力的だと感じる点はやはり美しい鱗に覆われた外観だ。他の生き物には見られない特徴であり、種類によってはまるで“現代に生きる恐竜”のようで神秘的な印象さえ受ける。また、爬虫類には発声器官が無いものも多く、鳴き声をあげることがほぼ無い。また、排泄物の処理さえ怠らなければニオイも無い。餌についても毎日与える必要のない種類が多いため、多少の留守を気にする必要もない。これほどペットに適した生き物はいないのではないかと感じるほどだ。

3. よくある疑問

3.1. 狂暴なのでは？危険はない？

冒頭でも述べたように世間一般に爬虫類は「危険な生き物」として認知されている。但しこれは厳密には誤りである。一部気性の荒い種類は一定数いるが、基本は個体差と人間に慣れているかどうかである。ペットショップに展示されている個体の多くは基本的に襲ってくることはない。犬を例に比べると、山などで遭遇したとすれば野生下では犬のほうが脅威である（個人の見解です）。

3.2. 毒はないのか？

種類によるが、ペットショップで扱っているものは毒性の無いものがほとんどである。一部神経毒を持つ種類もいるが、人間の命を脅かすような猛毒を持つ種類は、無許可では飼育が出来ないものが多い。

3.3. エサは何を食べるのか？

これが飼育を始めるうえで最も障害となる項目といえる。爬虫類の食べるものは大まかに挙げると以下の通りになる。

- ・ヘビ：主にネズミ
- ・トカゲ：主にコオロギ等の昆虫
- ・ヤモリ：ク（人工餌もある）
- ・カメレオン：ク
- ・カメ：野菜、フルーツ等（人工餌有）

ネズミや虫の類は苦手と思う人が多く、これらを扱うことに抵抗があるために飼育できないという声も聞く。要は慣れの問題だが、爬虫類は犬や猫のように毎日数回餌をあげる必要はないため餌の種類さえ克服してしまえば飼育は容易である。トカゲは2、3日に一度、ヘビに関しては2週間に一度という頻度なので多少の外泊には全く影響がない。これも爬虫類がペットに適していると考えられる理由である。

4. 我が家で飼育している爬虫類紹介

冒頭で「爬虫類」の飼育をしていると述べたが、私が飼育しているのはヘビのみだ。現在2匹飼育している。



我が家で使用している飼育ケージ

・ジャングルカーペットパイソン
(*Morelia spilota cheynei*)

オーストラリアを代表するニシキヘビ、カーペットパイソンの亜種。鮮やかな黄色と黒のコントラストが特徴で、成体の全長は1.8m~2.1m程度になる中型種である。



ジャングルカーペットパイソン〔個人撮影〕

・ブラジルレインボーボア
(*Epicrates cenchria*)

ニジボアとも呼ばれる南米ブラジルに生息するヘビ。名前の通り、鱗の表面が薄っすらと虹色に光る。成体の全長は1.6m程度、最大でも2.0m程度。



ブラジルレインボーボア〔個人撮影〕

■飼育環境

基本的に群れを成す生き物ではないため、1匹につき1つの飼育ケージが必要となる。基本的には以下のものがあれば飼育可能。(種類によって多少増減有)

- ・飼育ケージ
- ・水入れ
- ・床材
- ・バスキングライト
- ・隠れ家

爬虫類は変温動物のため、基本的には自分で体温調節ができない。そのため保温器具等でケージ内の温度を一定に保つ必要がある。また、トカゲ・カメは骨格形成のために紫外線を必要とするため専用のライトを

私の趣味

必要とする。ここだけは飼育する上で少々難しいところである。ただ犬や猫と違いその生き物の生息環境を調べて再現するという、「環境を飼う」ことも楽しみ方の一つである。

■初心者にもおすすめ！ペットにしやすい爬虫類紹介

・コーンスネーク

北米に生息する比較的小型のヘビ。全長は1.2m～1.5mのため日本の限られた住宅スペースでも十分飼育可能である。また寒さにも強いため飼育しやすいヘビといえる。様々な色彩の個体が流通しているため非常に人気が高い種類である。



コーンスネーク [爬虫類倶楽部HP]

・レオパードゲッコー (ヒョウモントカゲモドキ)

アフガニスタン、インドなどに生息するヤモリの仲間である。非常におとなしい性格の個体が多く、丈夫で慣れやすいためペットとして高い人気がある。何年か前の話ではあるが、女優の新垣結衣さんが飼っていることで少し話題になった種類。カラーバリエーションも豊富で、全長が20cm～25cmと小型のためコレクション感覚で沢山の個体を飼育する人も珍しくない。爬虫類飼育の入門としておすすめできる種類である。



レオパードゲッコー [爬虫類倶楽部HP]

・フトアゴヒゲトカゲ

オーストラリアに生息する小型のトカゲ。成長しても40cmほどのため飼いやすく、丈夫で人に慣れやすい種類である。とてもよく餌を食べる個体が多いため、見ていて楽しいことも魅力の一つ。



フトアゴヒゲトカゲ [Pure-Animal HP]

・ヘルマンリクガメ

ヨーロッパの比較的乾燥した地域に生息するリクガメ。最大でも30cm程度の大きさにしかならないため、飼いやすい種類。ほかの爬虫類と違い動きがゆっくりで隙間に入り込む心配もないため、室内で放し飼いにする人も多い。



ヘルマンリクガメ [Charm HP]

■終わりに

世間では脱走事件などもありまだまだ印象があまりよくない爬虫類だが、最近では女性人気も出てきて飼育する人も増えてきている。省スペース、無臭、静か、外泊も可、ただし食べる時はよく食べ、よく動き、目に見えて成長も感じられる。ペットとしての魅力は十分に備えているため、これを読んでいただいた皆様に少しでも爬虫類の魅力が伝わっていれば幸いである。もし興味を持っていただけたなら近くのペットショップへ足を運んでみてほしい。そしてこれからペットの飼育を考えている方はぜひ候補に加えてみてはいかがでしょうか。

福島ロボットテストフィールドの紹介

株式会社東コンサルタント 黒澤 孝



1. はじめに

福島県浜通り地域は2011年の東日本大震災と原子力災害により甚大な災害を被りました。特に原子力災害は地域住民の生活や産業を全て奪うもので、10年たった現在でもこの状況は続いています。

このような状況から地域の生活や産業を回復させ、新たな産業基盤の構築を目指して、「福島イノベーション・コースト構想」が立ち上げられました。構想は、東日本大震災および原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業回復のために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトとして位置づけられています。構想では、「廃炉」「ロボット・ドローン」「エネルギー・環境・リサイクル」「農林水産業」「医療関連」「航空宇宙」の6つの分野を主要プロジェクトとして定め、これを具体化するための拠点が各地に整備されてきています。

2. 福島ロボットテストフィールドの概要

福島イノベーション・コースト構想に基づき、陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点として整備されたのが「福島ロボットテストフィールド」です。施設は、南相馬市復興工業団地内（津波被災地を嵩上げ復旧）の東西約1,000m、南北約500mの敷

地に「無人航空機エリア」「水中・水上ロボットエリア」「インフラ点検・災害対応エリア」「開発基盤エリア」が設けられており、さらに13km南の浪江町棚塩工業団地内に長距離飛行試験のための滑走路が整備されています。

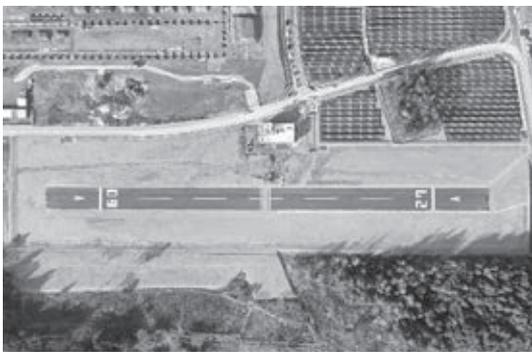


3. 各施設の概要

(1) 無人航空機エリア

無人航空機（ドローン）の実証試験や操縦訓練を行うための試験場です。

- ①南相馬滑走路（L=500m、W=20m）
- ②浪江滑走路（L=400m、W=20m）
- ③滑走路付属格納庫（S造り2F×2棟）
- ④通信塔（H=30m）・広域飛行区域
- ⑤緩衝ネット付き飛行場
- ⑥風洞棟
- ⑦連続稼働耐久試験棟



(2) 水中・水上ロボットエリア

ロボットによる水中のインフラ点検と災害対策の実証試験のために整備した国内唯一の試験場です。ダム、河川、港湾、水没市街地等で発生するインフラの状況や災害現場を再現できます。

①水没市街地フィールド

一部浸水や冠水した建物を設置し、水害で被災した市街地を再現しています。

水中・水上ロボットなどの試験や操縦訓練が行えます。



②屋内水槽試験棟

大水槽では、老朽化した水中構造物を模したテストピースを備えています。小水槽では、濁度を調整して、観測機器の性能を試験できます。



(3) インフラ点検・災害対応エリア

ロボットによるインフラ点検と災害対応の実証実験のためにトンネル、橋梁、プラント、市街地道路等の構造物を設置し、老朽化したインフラ状況や災害現場を再現できます。

①試験用橋梁

鋼・コンクリート製の4種類の形状の橋梁で、老朽化や障害物を再現しています。

状況確認や点検に関する試験、ドローンでの操縦訓練を行うことができ、点検対象となるコンクリートのひび割れ・剥離・うき・鋼材のボルトの緩み・亀裂や、点検時に障害となる照明柱、防護柵も再現しています。



②試験用トンネル

状況確認、搜索、瓦礫除去、老朽化点検に関する試験や操作訓練を行うことができ、壁面には点検対象となるひび割れやうきを再現しています。内部には車両、瓦礫、岩石、土砂など障害物を自由に配置・固定出来るほか、両側シャッターを閉鎖して長大トンネル中央部を再現できます。



③市街地フィールド

住宅、ビル、信号、標識付き交差点のある市街地を再現しています。車両や瓦礫、点検対象物などを置き、情報収集、調査、点検等を行うロボットの試験や操縦訓練、消防訓練等が行える試験場です。



④瓦礫・土砂崩落フィールド

泥濘地、土砂傾斜地、陥没など災害時の道路遮断現場、土砂崩落現場を再現しています。状況確認、復旧作業等を行うロボットなどの試験や操作訓練等が行えます。



その他、(3) インフラ点検・災害対応エリアでは、試験用プラントを再現し、計器・指示器の変動などにより異常環境を再現することができます。また、開発基盤エリアも整備されており、福島ロボットテストフィールドの本館として機能する研究棟他、試験準備棟、屋外試験準備場、簡易計測室A、Bがあります。

4. おわりに

福島ロボットテストフィールドでは2020年3月に全面開所され、「(公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構」が施設の貸出や利用支援を行っています。南相馬市としても「日本一実証がしやすいまち」を掲げ、これまで様々なチャレンジを行う事業者を支援しています。また、「空の産業革命に向けたロードマップ2021」の測量分野では、

- ・公共測量におけるUAV活用支援
- ・工事測量等における利活用の推進

を掲げ、「3次元測量により詳細な地形の把握、3次元データの作成を促進」の実現を目指しています。

福島ロボットテストフィールドは、既に様々な活用実績があり、多方面での活用が始まっています。測量設計業関係でも、UAVを用いた点検の実証試験や、ドローンの操縦訓練等、生産性向上に向けての各種試験等が行われており、当社も含め積極的な活用を図っていきたく考えています。

今回は「復興後の新たな拠点での福島ロボットテストフィールド」をテーマに、地元企業としての視点から微力ながら紹介させていただきました。今回の紹介で協会各社様が施設の利活用としてのきっかけとなれば幸いと思い執筆いたしました。

※利用にあたっての詳細は公益財団法人「福島イノベーション・コースト構想推進機構」のホームページ等でご確認ください。(https://www.fipo.or/robot/)

第19回（令和2年度）高校生「橋梁模型」作品発表会の開催報告

総務部会長

株式会社長大 長 南 憲 一

1. はじめに

高校生「橋梁模型」作品発表会は、平成14年度から毎年開催され、令和2年度で19回目の開催となります。第1回目は宮城県内の土木系学科からの応募でしたが、現在は東北6県からの参加となっています。

本発表会の目的は、実行委員会の資料を引用させて頂くと、「未来の技術者である高校生を対象に、橋の模型づくりの体験（楽しさ、創意工夫）を通じて、橋の知識の習得とともに、社会を支える基盤となる橋等の土木構造物への理解を深めて頂くこと」を基に開催されております。

2. 作品の応募要項

応募作品（橋梁模型）には、「作品の課題」「作品の寸法規程」が定められています。

◇作品の課題：①国内外を問わず実在する橋

②国内外を問わず過去に存在した橋

③実際にはない形式、構造の橋、夢のある橋

◇作品の寸法規程：長さ 1.5m以下（土台含む）

平面積 0.6㎡以下（土台含む）

高さ 1.0m以下（土台含む）

重さ 10 kg以下（土台含む）

3. 建設コンサルタンツ協会の担当役割

建設コンサルタンツ協会総務部会は、実行委員会として協力を行いました。実行委員会は、東北地方整備局東北技術事務所を事務局とし、建設コンサルタンツ協会の他4団体で組織され、第1回で前年の実施報告、今年度の実施(案)の議題について審議し、第2回では作品の申込状況や審査員の推薦依頼を受けます。

4. 審査方法

例年は審査員による「一次審査会」と橋梁模型作品発表会としてせんだいメディアテークのオープンスクエアで一般参加者による投票も加えて行う「二次審査会」で行ってききましたが、今回はコロナ禍であることから一次審査会を「最終審査」として実施することとなりました。審査員の構成は、審査委員長を東北学院大学工学部武田教授、審査員は各構成団体より1名となっていますので、例年技術部会長にお願いをさせて頂いております。今回は技術部会長のご都合があわず、前総務部会長が審査員となりました。

今回は20高校から30作品の応募があり、全応募作品を「予備選定」として審査員1名あたり7作品を選考し、10~20作品程度に絞り込み、最終審査を実施しています。最終審査は以下の3つの観点で項目毎に、0（低）~5（高）で評価し、最も得点の高かった作品を「最優秀賞」、上位2・3番目を「優秀賞」、4~6番目又は制作の着目点等が優れた3作品を「審査員特別賞」、それ以外の6作品を入賞とし、同点等が発生した場合は審査員協議により順位が決定されています。

◇最終審査の観点

①構造物としての安定した外観

【対象:共通】橋梁の仕組みが良く表現されている

【対象:実橋】見た目や構造の再現性が高い

【対象:想像】構造体としての合理性が高い

②出来栄

・的確な材料を使用し質感が高く、完成度が高い

・細部にわたり作りが緻密、作り込みの精度が高い

③アイデア・デザイン

・模型の見せ方の工夫度が高い

・模型全体のデザインに工夫や新規性がある

5. 作品発表会

令和2年度（2020年度）高校生「橋梁模型」作品発表会はコロナ禍を考慮し、例年開催している仙台市内会場（せんだいメディアテーク）での発表会に代えて、初の試みである「WEB表彰式の開催」及び東北技術事務所の「ホームページにおける作品発表会」として令和3年2月16日（火）に開催されました。



写真-1 会場全景



写真-2 会場全景（橋梁模型）

当日は「入賞各学校（生徒の皆さん）」と主会場の「東北技術事務所大会議室（実行委員会）」をWEB上で接続し、実行委員長の開会あいさつから始まり、審査結果発表では30作品の中から、最優秀賞1点、優秀賞2点、審査員特別賞3点、入賞7点が発表され、受賞の喜びを身体全体で表している姿や表彰状授与での製作者による受賞コメントがありました。審査員長からは受賞全作品に及ぶ丁寧な審査講評、そして

WEB画面越しになりましたが参加者全員笑顔あふれる記念撮影と、充実した内容で開催されました。

開催直前の2月13日（土）に発生した福島県沖を震源とする最大震度6強の地震により、予定されていたYouTubeによるライブ配信が直前に中止となったことは非常に残念でした。



写真-3 WEB記念撮影

6. おわりに

高校生「橋梁模型」発表会は現在19回目まで実施されてきました。令和3年度も実施される予定で進められております。

平成14年度から現在まで、建設関連業を目指す土学科系の学生が、より建設業に興味を持てるような発表会は素晴らしい取り組みであり、参加させて頂けることに感謝いたします。

建設コンサルタンツ協会東北支部と致しましても、近い将来の建設業を、また未来を担う若い技術者がさらに建設業に興味をもって頂けるよう、継続した活動を通じて努力して参りたいと思います。

なお、第19回（令和元年度）高校生「橋梁模型」の素晴らしい作品集は、下記のURLからご覧下さい。

※）国交省東北地方整備局東北事務所ホームページ内
第19回（令和2年度）高校生「橋梁模型」作品集
http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/kyoryomokei/R2/pdf/r2_sakuhinshu.pdf

『社会資本の整備を通じて国家に寄与する公器』を目指して

株式会社東光コンサルタンツ 仙台支店 支店長 藤 縄 寛

1. 我が社の経営理念

私たち株式会社東光コンサルタンツは、昭和35年(1960年)の創立以来「当社は、建設コンサルタントとして、社会資本の整備を通じて、国家に寄与する公器である。」を経営理念の第一として社会貢献を果たして参りました。お陰様で昨年(2020年)10月5日に創立60年を迎えました。これも偏に真のお客様であります国民の皆様と直接のお客様であります発注者の皆様、並びに協力会社の皆様等々ご関係の皆様からの多大なご支援・ご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。

約60年にわたり「毎日の業務は、社会的に非常に重い責任があることを自覚し、時代のニーズに応えた高度、高品質な技術を提供することにより社会に貢献すること、併せて適正な利潤を上げる」ことを目指して業務を遂行して参りました。昨今は、地球環境の変化に伴い、世界規模で自然災害が猛威を振るい、各地で甚大な被害が発生し、平穏な日常を支えるインフラ整備の重要性が再認識されております。時代とともに、私ども建設コンサルタントに求められるサービスは多様化、高度化しておりますが、当社は引き続き上記の経営理念の実践を通じて、社会貢献を果たして参りたいと存じております。

2. 会社創業時の状況

私は、平成7年(1995年)に入社したため、創業当時の状況は知る術もありません。そこで、当社の社誌より創業当時の状況を抜き出してみたいと思います。

当社の創立した昭和35年(1960年)は、建設コンサルタントの創成期であり、第二次大戦の『終戦から十数年を経過した日本経済も混乱から立ち直って復興建設へと向かい、高速道路、新幹線、住宅団地等の建設、また民間重工業の復興、或いは、石油コンビナート建設等、大規模建設プロジェクトが続々と実現する情勢の中で、時代の要請でもあり、昭和32年(1957年)に技術士法が制定され、第一回の技術士試験は昭和33年(1958年)に施行され、職業としてのコンサルタントの社会的地位が認められるようになりつつあった。』と記されています。

そうした時代に、当社創業社長である堀龍雄が、南満洲鉄道株式会社(略称：満鉄)が瓦解した後に『帰国し、大阪市港湾局の設計係長として、昭和23年(1948年)から5年間在職し、戦災で破壊された港湾施設の復興工事に活躍し、その後、東洋埠頭株式会社の本社技師長として、戦災で荒廃した施設の復興、改良、新設の工事を担当しました。東洋埠頭は、旧満鉄の国内に残された唯一の資産である旧日満倉庫株式会社が、戦後生まれ変わって出来た会社で、社長以下殆どの幹部社員が旧満鉄社員でありました。東洋埠頭在勤中に、京浜地区に港湾施設を持つ会社や、大阪市役所時代に付き合った建設業者の中に、港湾に関する技術的な相談や設計依頼を、堀に持ち込むものが出てくるようになっていた。』と建設コンサルタントとしての独立を考えるようになった経緯を示されています。

そして、遂に昭和35年(1960年)に堀龍雄を含む7人の発起人で、資本金300万円で東京都港区新橋に株式会社東光コンサルタンツを創立しました。ちなみに、社名については、発起人の一人である東洋埠頭(株)『阪口常務が満鉄の社歌の出だし「東より光はきたる、光をのせて…」から、株式会社東光コンサルタンツは如何と言われたのを採用した』とあります。その後、創業社長が大阪市港湾局出身であることもあり、昭和36年(1961年)6月には大阪支店を開設しました。当時の受注は、港湾局一本でありましたが、仕事は途切れることなく順調に推移したとのことで、その他には、建設省(当時)よりの「東名高速道路・由比-蒲原間海岸ルート調査」や首都高速道路公団よりの「羽田1号線・海底トンネルルートの計画」、東洋埠頭(株)よりの「東洋埠頭晴海立体倉庫設計」等があり、海外では木下産商の依頼で「チリ鉄鉱石積出港調査」を実施したとあります。昭和38年(1963年)6月には、設立して日の浅い日本道路公団から数多く受注していた株式会社新星工務所との合併により、従来の港湾と建築の設計が中心であった当社は、道路・橋梁部門に飛躍的な進展を見せて、新たに建設省、日本道路公団等からの受注が入る総合コンサルタントの基礎固めが行えました。

そうした中、『昭和40年（1965年）11月、東北、中央、北陸、中国及び九州の所謂、新規縦貫五道の基本計画が決定、続いて昭和41年（1966年）7月国土開発幹線自動車道建設法が制定されて、7,600kmの全国高速自動車道ネットワーク計画が法制化され、高速道路建設の全国的な展開がスタートすることとなりました。その中で東光コンサルタンツは、九州縦貫道の福岡県八女市から熊本県南関町に至る約37kmの路線選定業務を受託することとなり、一挙に東光の活動範囲は九州まで拡大』しました。そのため、昭和42年（1967年）1月に福岡営業所を発足、翌昭和43年（1968年）4月1日付で支店昇格を果たし、東京、大阪、福岡の三拠点体制が構築されました。以後、港湾、漁港の設計と日本道路公団からの高速道路の設計や施工管理を主な業務として事業を拡大することとなりました。

3. 仙台支店の歩みと今後

さて、当社仙台支店ですが、その発足は、昭和48年（1973年）12月に仙台営業所を開設したことに端を発します。当時、官庁OBの導入を積極的に行う方針を立て、運輸省（当時）OBを港湾部長に迎えるなど、港湾、漁港業務の受注拡大を目指す一環として、三陸沿岸の港湾、漁港整備等に対する受注を目指し開設したものです。

営業所開設以降、平成7年（1995年）9月までの20年10ヶ月を営業所として活動して参りましたが、当社36期（平成7年10月）より支店に昇格し、技術社員6名、営業社員6名を配置する本格的な支店体制を整えました。

受注の主力は、宮城県並びに岩手県の港湾、漁港業務であり、紆余曲折はありましたが、小規模ながら「社会資本の整備を通じて、国家に寄与する公器」という会社の経営理念を踏まえ、真のお客様であります国民に“安全で安心な”社会インフラを整備するため努力して参りました。

しかし、あの平成23年（2011年）3月11日の東日本大震災で我々の安全に関する認識が変わってしまい

ました。当時の技術社員が、震災を振り返り『我々が街を守るために設計した宮城県気仙沼港の防潮堤は、全くと言って良いほど、その時の津波には役に立たず、防潮堤だけが無傷で残り、背後の街は無残に破壊されていたとき、我々のこれまでの実績を否定された思いが致しました。しかし同時に、東北沿岸の復興に微力ながら貢献しなければとの思いが沸々と湧き上がるのを感じた』と言っておりました。

その言葉のとおり、彼は、岩手県河川課より依頼を受けた津波シミュレーション業務を遂行（国際航業、パシフィックコンサルタンツ、八千代エンジニアリング、東京建設コンサルタントと当社の5社で分担実施）し、震災後の防潮堤天端高の決定を行いました。そして、そのシミュレーション結果を基に構造（天端高=T.P.+14.7m）を検討した新たな防潮堤が岩手県宮古市田老に建設されております。しかし、この巨大な防潮堤でも当時の津波は防げず、防ぐためには更に15m以上も高くする必要があり、想定外の災害に対しては、ハード整備だけでは限界があり、ソフト対策も併せた対策が必要不可欠となります。

そのため、これまでの港湾構造物の設計業務ばかりでなく、都市計画などの分野においても社会貢献できるように、仙台支店のほか、盛岡営業所、秋田営業所、福島営業所を擁し、東北管内の社会資本整備に貢献して参りたいと思います。

4. おわりに代えて

創立以来約60年間にわたり培った技術力、組織力、人財を最大限に活用して、日々技術の研鑽に努め、品質の確保・向上を図り、サービス業の真髄は「お客様本位」であることを肝に銘じ、プロフェッショナルとして誠実に国民の皆様のご期待に応える努力を続けて参ります。

何卒、引き続きご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

以上

【技術部会 技術交流専門委員会】の紹介

技術交流専門委員長
株式会社復建技術コンサルタント 今泉 敏郎

1. 委員会の役割

技術交流専門委員会は、技術部会長および副部会長のもと、技術部会活動の運営と各専門委員会活動（構造・道路・河川・環境・地盤・防災・ICT）を支援しております。また、他関連団体や官公庁との各種技術交流を行っております。

2. 委員会のメンバー

技術交流専門委員会は、現在8名の委員で構成されており、様々な活動に対して支援をしています。

2021年度 委員名簿

| 氏名 | 役職 | 会社名 |
|-------|------|------------------|
| 今泉 敏郎 | 委員長 | (株)復建技術コンサルタント |
| 富田 克彦 | 副委員長 | (株)長大 |
| 大木 高志 | 副委員長 | (株)復建技術コンサルタント |
| 馬淵 幸雄 | 委員 | パシフィックコンサルタンツ(株) |
| 荒関 正二 | 委員 | (株)オリエンタルコンサルタンツ |
| 松尾新二郎 | 委員 | 日本工営(株) |
| 松浦城太郎 | 委員 | (株)建設技術研究所 |
| 佐々木 貢 | 委員 | いであ(株) |



【今泉】



【富田】



【大木】



【馬淵】



【荒関】



【松尾】



【松浦】



【佐々木】

3. 主な活動

- ① 技術部会総会の開催および運営 1回/年
総会資料を作成し、毎年6月に技術部会委員全員を集めて開催しています。前年度の活動報告と今年度の活動予定について委員に報告しています。
- ② 技術部会の開催および運営 4回/年
技術部会長が各専門委員長を招集し、不定期ですが年4回程度開催しています。支部活動についての方向性や技術部会開催行事の準備をしています。
- ③ 技術担当者会議の開催 1回/年
総会が年1回であり全委員が一同に集まることがないので、委員懇親の場の一つとして開催しています。幅広い分野から講師をお招きし、委員への情報提供の機会となっています。
- ④ 災害対応および支援
頻発する災害により、国や地方自治体への災害支援をしています。一昨年度発生した宮城県南部の豪雨災害においては、建コン東北支部加盟会社のみではなく、全国から多くの災害支援をいただきました。
- ⑤ 各種講習会への講師派遣
国や地方自治体から多くの講師派遣要請があります。毎年40講座以上の講習会に対し、その窓口としての対応、専門技術者の推薦を行っています。
- ⑥ 技術士模擬面接の実施
筆記試験合格者に対し、経験豊富な技術者による模擬面接を実施しております。昨年度は86名実施し、多くの合格者輩出に寄与しました。

4. 今後の活動について

コロナ禍により多くの講演会や懇親会が延期や中止となっていますが、今後も技術部会をまとめるとともに各委員会の「交流」の一助として活動を続けていきます。

以上

東北支部 若手の会 活動紹介

東北支部 総務部会 若手の会 委員長
株式会社三協技術 佐々木 香菜子

1. 若手の会の概要

若手の会は平成28年7月に設立され、これまで5年間活動し、現在6年目の活動へ突入している。設立の目的は、東北地方や建コン業界の“これから”について若手技術者が議論を交わし交流を深める場をつくることにより、若手の力で業界を活性化することである。これまで、メンバー間での意見交換や交流会を通じた若手技術者による意見交換など交流の場を設け、若手の会として積極的に活動を続けてきた。

また、令和2年度は、新型コロナウイルスが世界的に蔓延し、日常が大きく変わった年である。これまでの若手の会では、月に1度メンバーが集まり定例会を開催していたが、新型コロナウイルスの影響により対面での会議は断念し、WEB会議システムを活用した定例会を開催することとした。若手の会では、これまでに30回の定例会を実施し、8回の交流会を開催しているが、このうち、WEB形式による定例会を5回、交流会を2回実施した。

WEB形式の会議は手探り状態での開催であったがメンバー同士の協力により定例会だけでなく、最終的にはWEB形式の交流会を実現することができた。このことは、昨年度の活動の中でも大きな収穫である。



▲WEB定例会の様子

2. 委員会のメンバー

設立当初の若手の会は、東北支部の広域コンサルタント、地域コンサルタントに属する18名のメンバーにより構成されていたが、現在はメンバー交代や新たなメンバーが加わり、令和3年4月からは総勢22名で活動している。

| | | | |
|------|---------|------------------|------------|
| 委員長 | 佐々木 香菜子 | (株)三協技術 | |
| 副委員長 | 椎名 昌士 | 大日本コンサルタント(株) | イメージWGリーダー |
| 幹事 | 小林 光司郎 | 応用地質(株) | |
| 委員 | 安達 和也 | 新和設計(株) | |
| 〃 | 伊藤 和真 | (株)昭和土木設計 | |
| 〃 | 岩谷 直貴 | (株)建設技術研究所 | |
| 〃 | 小田嶋 健太 | (株)復建技術コンサルタント | |
| 〃 | 小山内 隆彦 | (株)キタコン | |
| 〃 | 酒井 里佳子 | 三協コンサルタント(株) | 調査WGリーダー |
| 〃 | 加藤 優平 | (株)福山コンサルタント | |
| 〃 | 高波 竜一 | 日本工営(株) | 交流会WGリーダー |
| 〃 | 高橋 一也 | (株)ウスマ地域総研 | |
| 〃 | 千葉 優貴 | (株)菊池技研コンサルタント | |
| 〃 | 東倉 弘晃 | 三井共同建設コンサルタント(株) | |
| 〃 | 富田 毅 | (株)オリエンタルコンサルタンツ | |
| 〃 | 中川 裕一 | (株)東コンサルタント | |
| 〃 | 中村 麻里亜 | いであ(株) | |
| 〃 | 古里 駿 | (株)長大 | |
| 〃 | 松井 俊樹 | 陸奥テックコンサルタント(株) | |
| 〃 | 南 まさし | パシフィックコンサルタンツ(株) | |
| 〃 | 宮沢 林太郎 | 日栄地質測量設計(株) | |
| 〃 | 山本 佳和 | (株)復建技術コンサルタント | |

令和3年10月現在

3. 令和2年度の活動状況の報告

若手の会では調査WG、交流会WG、イメージWGに分かれて活動している。

(1) 調査WG

調査WGは、東北地方における建設コンサルタント業界の現状を把握するために、アンケート調査を行っている。令和2年度は、毎年学生に実施している「建

設コンサルタントへの理解度・認知度アンケート」に加えて、「コロナ禍における働き方改革アンケート」を若手の会メンバーに実施した。働き方改革アンケートにおいては、新たに実施した働き方に関するメリット、デメリットや考えられる改善策について記載してもらい、新たな働き方に関する有意義な調査結果を得ることができた。

(2) 交流会 WG

交流会 WG は、コロナ禍による県を跨いでの往来が難しい中、新たな交流の在り方として、WEB会議システムを活用した交流会を開催した。

建コンの若手技術者を対象とした「建コン東北支部若手の会 WEB 交流会」では、「コロナ禍によって加速する働き方改革」をテーマに、グループに分かれて問題点や理想の働き方について意見交換・共有を行った。東北6県以外からも2名の参加があり、参加場所にとらわれないWEB会議の長所を活かした交流会となった。

また、2回目の開催となる「東北地方整備局若手職員との交流会」では、「現状の建設業界に対する思いの棚卸し」や「東北地方の近未来のために」をテーマに意見交換を行った。意見交換では、業界の魅力向上や担い手不足が課題として挙げられ、その解決策として、「今後の建設業 PR」方法などの認識を共有できた。

WEB会議形式というコミュニケーションや互いの距離感が取りづらい参加方式であったが、自由な発言と活発な意見交換に繋げることができた。

(3) イメージ WG

イメージ WG の令和2年度の活動内容としては、SNS (Facebook、Twitter 等) を活用した広報活動の他に、毎年開催していた「現場見学会」を企画検討した。しかしながら、コロナ禍の影響により、不特定多数の人が集まるイベントの開催は見送ることとした。

SNS による広報活動では、新たに Instagram を開設し、調査 WG で実施した学生アンケート結果の公表を行った。SNS のフォロワー数は着実に増えてきているが、業界内のフォロワー数が多いため、業界外へのアプローチが今後の課題となる。

4. 令和3年度の活動方針

(1) 調査 WG

令和3年度は、昨年度の学生アンケート内容を見直し今の学生が考える「仕事に対する価値観」や「求め

る働き方」を把握することを目的としたアンケートの実施を予定している。“地元(東北)での就職を希望するか”という東北らしい内容も追加する。アンケートに協力いただいた学生に対して、調査結果や建コンの情報提供などのアフターフォローも行っていく。

また、若手技術者に対して、ZOOM を使ったインタビュー形式の調査を行う。業界を目指したきっかけ、建コンのいいところ、就活生へメッセージなど業界 PR となる内容で調査を行い、記事や動画として発信していく。

(2) 交流会 WG

交流会 WG では、令和3年度も引き続き「WEB 交流会 (10月下旬開催)」と「東北地方整備局若手職員との交流会」を実施していく予定である。社会の情勢を見つつ、安全・安心、効果的な交流会の形を模索し、若手同士の繋がり、東北地方の明るい未来の創出に貢献していく。

(3) イメージ WG

イメージ WG の令和3年度の活動内容としては、SNS による業界外向けのアプローチの充実化、アフターコロナでの実施に向けて「出前講座」や「現場見学会」の検討を行っていく。

また、新たな企画として、「コミュニケーションサイトの開設」についても検討していく。この企画は、交流会等のイベント後に、期間限定で参加者同士が交流できるサイトを開設し、交流会で話し足りなかったこと、若手技術者の悩みや疑問、今後のイベント開催に向けた意見交換等を可能とするツールとして、活用できるものをイメージしている。これは有意義な意見交換ができるツールの作成に向けた試験的なものであり、試行錯誤した上で今後ブラッシュアップをしていく必要がある。

5. おわりに

まず、これまでの“若手の会”の活動にご協力いただきました関係者の皆様に感謝いたします。今後も積極的に活動が続けてまいりますので、ご指導、ご協力をお願いいたします。

また、コロナ禍という特殊な状況ではありますが、WEB 等を積極的に活用し、建コン業界の魅力を発信することで業界の活性化を図っていきたいと考えています。

EE東北'21について

株式会社ダイエツ 樋口章大

今年で30回目の節目となる『建設技術公開EE東北'21』が夢メッセみやぎで開催されました。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となったため、2年ぶりの開催となりました。EE東北のEEとはEngineering Exhibition（エンジニアリング・エキシビジョン）の略で、新技術を広く公開するという意味が込められており、建設事業に関わる新技術、新工法、新材料、その他時代のニーズに対応して開発された技術が毎年公開されてきました。

主催はEE東北実行委員会（委員長・東北地方整備局・企画部長）で19の建設関連団体等から構成され、建設コンサルタンツ協会東北支部もその1員となっております。

■開催概要

期 間：2021年6月2日（水）～6月3日（木）

場 所：みやぎ産業交流センター《夢メッセみやぎ》

来場者数：9,900人（主催者発表値）

WEB会場来場者数：6,600人（主催者発表値）

出 展 者：319（過去最多）

出展技術：934（過去最多）

今年のテーマ：『広げよう新技術つなげよう未来へ』

また、実際に建設機械等を見て触れながらICT施工技術を体験できる第30回開催記念i-Construction体験広場やインフラ点検・長寿命化技術デモンストラクション、新技術プレゼンテーション等が各会場で行われました。

建設コンサルタンツ協会東北支部からは以下のとおり29社（グループ出展含む）が参加し、新技術の紹介展示を行いました。



屋内会場入り口



屋内会場の様子



屋外会場の様子

■EE東北'21 出展社・技術一覧（建設コンサルタンツ協会 東北支部）

| | 会員企業名 | 出展技術名 | 概 要 |
|----|---|--------------------------|---|
| 1 | 朝日航洋(株) | 8Kカメラ搭載計測車両「GT-8K」 | 従来のMMSの性能を遥かに凌ぐ新型MMS計測車両「GT-8K」 |
| | | 河川施設管理の高度化 | 陸・海（川）・空から河川管理施設の3次元化、管理・点検を支援します |
| | | 道路・構造物の維持管理支援システム | GISと3次元点群データを活用した道路・構造物の維持管理支援システム |
| 2 | アジア航測(株) | 中小河川を対象とした簡易浸水想定 | 航空レーザ計測データを活用した効率的な水害危険情報図の作成 |
| | | 航空レーザ測深器（ALB）による河川管理 | ALBによる点群測量で効率的な河川縦横断面測量 |
| | | MMS、地中レーダ探査車による道路陥没リスク調査 | 路面の劣化及び路面下空洞化の把握による道路陥没リスクの低減 |
| 3 | 応用地質(株) | OYO GeoTools | BIM/CIM関連ソフトウェア「OYO GeoTools」 |
| | | ハザードマッピングセンサソリューション | OYOのIoTとセンサ技術を複合した「ハザードマッピングセンサ」で面的な防災システムを構築します |
| | | 3次元常時微動トモグラフィ | 振動を計るだけで地盤を3次元で可視化 |
| 4 | オリエンタルコンサルタンツホールディングス(株)アサノ大成基礎エンジニアリング | 観測孔を利用した地下水の流向流速測定 | 観測孔用に開発した新型流向流速計（Type-40）地下水流動特性を簡易+短時間+高精度で把握 |
| | | SLAM技術を活用した3次元計測 | 自己位置推定と地図作成を同時に行うアルゴリズム技術であらゆる箇所の3次元計測を行います |
| 5 | オリエンタルコンサルタンツホールディングス(株)オリエンタルコンサルタンツ | 橋梁維持管理計画最適化システム | 自治体の効率的かつ効果的な公共施設マネジメントを支援します |
| | | 土砂災害警戒避難システム | リアルタイムの災害危険情報や水位情報により避難行動を高度化します |
| | | AI礫判読システム「グラッチェ」 | AIの判別力で石礫を安全・迅速・高精度に把握します |
| 6 | オリエンタルコンサルタンツホールディングス(株)エイテック | ドローン（UAV）の有効活用 | ドローンの特長を生かした、その場に合わせた計測技術をご提案します。 |
| 7 | (株)建設環境研究所 | AIを活用した音声入力による樋門等点検システム | AIを活用した音声入力による樋門等点検システムを用いて、点検業務の効率化を支援します。 |
| 8 | (株)建設技術研究所 | AIやクラウドシステムにより高度なダム操作を支援 | 長期降雨予測を用いたダム操作支援情報の提供 |
| | | 誰もが自由に移動できる社会を目指して | 次世代モビリティ（自動運転、MaaS、オンデマンド交通、パーソナルモビリティ等）による地域交通の支援 |
| | | 震災復興まちづくり【復興支援】 | 東日本大震災：岩手県釜石市・宮城県女川町復興まちづくりのあゆみ |
| 9 | (株)構研エンジニアリング | 既設落石防護擁壁の補強工法「ソイルバンパー」 | 既設無筋コンクリート製落石防護擁壁の耐衝撃性を1,000kJ級に向上させるための緩衝システム |
| | | 道路トンネル点検システム「ロードビューワ」 | 道路トンネル点検において、複数台のカメラでトンネル内の動画を撮影し、連続展開画像を作成するシステム |
| | | 移動式定点撮影システム | GPS位置情報を利用した移動式定点撮影システム プログラミングにより同一箇所の繰り返し自動撮影が可能 |
| 10 | 国際航業(株) | DX推進に向けた先進技術 | 3D都市モデルの構築・更新と多様な都市DXソリューション |
| | | 空間情報を活用したソリューションサービス | Wi-Fi人口統計データを活用した人流ビックデータ解析 |
| | | リアルタイムで状況を把握する防災情報提供サービス | 防災情報をワンストップで提供し企業のBCP/BCM活動を支援 |
| 11 | (株)三和技術コンサルタント／(株)カナン・ジオリサーチ | 地中レーダ3次元モバイルマッピングシステム | 地下と地上情報の一元管理 |
| 12 | JCEホールディングス(株)国土防災技術(株) | 蛍光X線分析装置によるコンクリートの塩分濃度測定 | 硬化コンクリートに含まれる塩分濃度を高精度、効率的かつ安価に分析することを可能とする蛍光X線分析装置 |
| | | 地すべり粘土の残留強度試験技術 | 充実した試験体制を整備し、地すべりや斜面の安定度評価に求められる「土の残留強度」を迅速に提供します |
| | | 3Dモデルを用いた集水井工点検・維持管理技術 | 集水井内の高品質展開写真や3Dモデルを作成し、点検・維持管理に役立つ資料を提供します |
| 13 | ダイエツグループ(株)ダイエツ／(株)センソクコンサルタント | UAV（ドローン）レーザーを活用した計測技術 | UAVを活用し写真解析やレーザー計測技術で高精度な3次元データを提供 |
| | | 走行画像計測によるトンネル点検 | トンネル等の構造物を高解像度ビデオカメラで点検・診断を行う画像スクリーニング技術 |
| | | 画像診断・計測技術を活用した橋梁点検 | 橋梁を高性能カメラで点検・診断を行う画像スクリーニング技術 |

| | 会員企業名 | 出展技術名 | 概要 |
|----|------------------------------|---------------------------|--|
| 14 | 大日本コンサルタント(株) | 橋梁点検用マルチコプタ【マルコ®】 | 人とロボット(自動制御)の協働による橋梁点検専用マルチコプタ |
| | | 先進的道路都市整備計画システム【防災・減災DX】 | 防災の観点を取り入れ、AIによる管理エリア全体の整備優先度を総合的に評価 |
| | | 次世代型インフラ維持管理計画システム | AIによる補助機能を活用したインフラマネジメント支援システムによるトータルエンジニアリング |
| 15 | (株)ダイヤコンサルタント | 非破壊調査・診断技術【高周波衝撃弾性波法】 | 波で状態を診る！ —基礎杭の長さ把握・健全性評価からグラウンドアンカーの定着状態評価まで— |
| | | 全アンカーに適用する除荷装置【ロード・リリーサー】 | 過緊張状態・短余長の全てのグラウンドアンカーの除荷を実現！～ナット定着式・クサビ定着式～ |
| | | 高真空N&H工法 | 気水分離システムの導入により高い真空圧を継続的かつ安定に維持できる改良型真空圧密工法 |
| 16 | (株)ダイワ技術サービス／(株)日本インシーク | i-Con 計測サービス | MMS・TLS・NMB・UAVによる、陸・水・空の三次元計測サービス |
| | | ドローンLidarシステムTDOT | UAV搭載型グリーンレーザによる地形測量・浅瀬深淺測量 |
| | | 維持管理の高度化・効率化に繋がるICT技術 | 3D計測・解析技術と蓄積された点群データで建設DXを加速 |
| | | 下水道管路管理のためのクラウドシステム | 管きょ施設の構造情報・施設情報・維持管理情報等を共有可能 |
| | | 路面性状調査(LCMS+MMS) | 路面性状調査車両(LCMS)にモバイルマッピングシステム(MMS)を搭載し、同時計測 |
| | | リアルタイムハンディスキャナ計測(STENCIL) | SLAMによるGNSSを使用しない三次元点群測量技術 |
| 17 | (株)タックエンジニアリング／(株)昭和土木設計 | 最新ICTを活用したBIM/CIM全体最適化技術 | i-Con大賞「国土交通大臣賞」受賞企業が実施測量・設計・そして施工へ BIM/CIM活用事例 |
| | | 急崖地災害におけるICT技術の地盤と設計への活用 | 急崖地災害現場における3次元モデルの利活用不安定領域の可視化と地盤モデルとの統合による設計への応用 |
| | | CVES map(赤青立体地図)の利活用事例 | 玄人技術を素人でも！万人が立体視できる地図で調査・解析の効率化をサポート |
| | | 赤青立体地図Viewerのご紹介 | 複数種の図面を同時閲覧！判読しながらデータ作成！効率化と高度化を兼ね備えたViewerの登場 |
| 18 | 中央開発(株) | 斜面崩壊検知センサー「感太郎」 | 設置の簡素化・多点化を可能にする軽量・省エネ・狭小・安価な斜面崩壊感知センサー |
| | | 懸濁気泡水ボーリング工法「IFCS工法」 | 緩い砂から破碎帯まで微細気泡水による高品質コア試料の採取 |
| | | 土木構造診断ツール「CESHMT」 | 常時微動・振動を計測して地盤の不安定化を監視 |
| 19 | 長大グループ(株)長大 | 斜張橋ケーブル点検ロボット「VESPINAE」 | 斜張橋ケーブルの近接点検を安全かつ迅速に実施できる点検ロボット |
| | | 生分解型粉塵防止剤「バイオグリーンシールド」 | 水で薄めて地面に撒くだけ。使用後は生分解作用で元通り |
| | | コンクリート用夜間反射塗料「Re-Flex」 | ドライバーの視認性が高まり、走行安全性が向上します。 |
| 20 | 長大グループ基礎地盤コンサルタント(株) | D・BOX工法 | 「地盤補強+振動軽減+液状化抑制の効果を備えた工法」【D・BOX工法】 |
| | | 衛星SARによる土構造物のモニタリング | 干渉SARにより広範囲の土構造物の経年変状を一括抽出し維持管理の効率化を図ります。 |
| | | 洋上風力発電開発における地盤調査 | 「音波探査」「海上CPT調査」「ボーリング調査」を組み合わせて海底地盤状況を評価します。 |
| 21 | (株)東京建設コンサルタント／(株)東建エンジニアリング | 流況画像解析サービス | 標定作業が不要な画像処理型非接触流速計測解析機能をWEBサービス(ASP)で提供 |
| | | 流量自動観測装置 | 複数地点の流速・水位を自動観測し、小型無線とクラウドサーバーを併用し、状態監視可能とした流量観測装置 |
| 22 | (株)ドーコン | 猛禽類の保全 | 希少猛禽類と共存する技術 |
| | | サイクルツーリズム振興 | 大型バストラックルームへの自転車積載装置の開発 |
| | | B・C・P対応/既存施設への発電機設置設計 | 公共施設の非常用電源導入 |
| 23 | (株)ニュージェック | 港湾施設被害度診断システム | 地震動波形データの入手、岸壁の供用可否の推定、被害推定マップの作成まで自動で行うことができるシステム |
| | | BIM/CIMなど事例紹介 | UAV、BIM/CIM、3Dスキャナーを用いた調査・計画・設計等事例紹介 |

| | 会員企業名 | 出展技術名 | 概 要 |
|----|---------------------------------|----------------------------|--|
| 24 | パシフィックコンサルタンツ(株) | 河川防災DX (防災オペレーション支援サービス) | 災害復旧時のオペレーションをITでサポート カメラ映像から河川の異状をAIで検知し迅速対応を実現 |
| | | 土砂災害の「どしゃぶる」とリスクを知る「しらべル」 | 降雨情報や土砂災害の発生可能性が分かる「どしゃぶる」と様々な災害リスクを知って備える「しらべル」 |
| | | 全国1.2億人の人流統計データ「全国うごき統計」 | 交通手段等を可視化した全国の移動に関するソフトバンクの人流統計データ「全国うごき統計」を提供開始 |
| | | 土木設計における新たなBIM/CIMソリューション | CATIAによるパラメトリック設計の実用化と砂防分野における活用事例 |
| | | 新技術プロデュース (貴社の技術開発支援&活用拡大) | 「今ある技術をどう売るか」をコンサルティング 視点を変えた使い方で貴社技術を最大限に活かしませんか? |
| | | 自転車観光ポータルサイトTABIRIN たびりん | 全国各地のサイクリングコース・マップ・スポット等の情報を日本中のサイクリストにお届けする総合サイト |
| 25 | (株)パスコ/JUAVACドローンエキスパートアカデミー仙台校 | グリーンレーザードローンソリューションの提供 | 陸上と水底の地形を3次元計測できるグリーンレーザースキャナの販売とドローン計測ソリューションの提供 |
| | | 航空レーザー測探機 (ALB)による河床計測技術 | 航空機を用いて、広域かつ面的に陸・河床・海底の高精度な3次元地形を取得します。 |
| | | 衛星による変動モニタリング技術 | 地球観測衛星による広域且つ定期的な観測 山間部の地盤変動や流域の土地利用変化等を検知 |
| | | ドローン測量 管理士・技能士 | i-Constructionの現場で活躍可能なスキルを習得できます。 |
| | | 一般社団法人 ドローン減災士協会 | ドローン減災士の育成・技術向上・資格認定。 |
| | | ドローンによる外壁劣化調査 (DW-System®) | 「速い・安い・納得」なドローン外壁調査を提案します。 |
| 26 | (株)福山コンサルタント | 下部工基礎の洗掘モニタリングシステム | 橋梁下部工の洗掘を遠隔モニタリング |
| | | リアルタイム水位監視システムと近未来A I水位予測 | リアルタイム水位監視が低コストで実現可能。 蓄積データより、近未来A I水位予測をリアルタイムに提供。 |
| | | モビリティマネジメントシステム | モビリティをマネジメントするための、データの選定・取得環境の構築・見える化までをワンストップで支援 |
| 27 | (株)復建技術コンサルタント | 橋梁の維持管理・点検技術の高度化 | 床版の非破壊調査技術による維持管理作業の効率化と実寸大3次元モデルを活用した維持管理手法の効率化 |
| | | 「e-River」による中小河川の維持管理 | 「e-River」とUAV写真測量技術を活用した電子版河川台帳システム (i-Con大賞受賞) |
| | | 大地震に強い宅地地盤とまちづくり | 大地震により被災した宅地地盤の災害復旧および防災・減災のための取り組み |
| | | 舗装アセットマネジメントの策定支援 | 舗装の長期修繕計画の策定・予防保全型補修計画による予算の最適化 |
| | | アンカー維持管理技術 (健全度判定方法の検証) | 簡易で効率的なアンカー点検技術 防錆油色差による鋼線腐食状況の推定方法構築 |
| | | 環境DNAを活用した河川管理 | 次世代の生物調査手法【環境DNA】 採捕不要で生物情報が取得できる手法を用いた河川管理の試み |
| 28 | 三井共同建設コンサルタント(株) | RRIモデルを用いたリアルタイム氾濫予測 | R R Iモデルを用いた全国版リアルタイム氾濫予測システム —河川規模を問わない全国の防災情報提供— |
| | | AI搭載ドローンを用いたひび割れのリアルタイム検出 | リアルタイム検出機能により、目視点検による見落とし防止をサポート |
| 29 | 八千代エンジニアリング(株) | 日常管理支援サービス i-MASTER | 日常管理を高度化・効率化し、市民満足度の向上を目指す「i-MASTER」 |
| | | ドローン自律飛行とAIによるコンクリート劣化調査 | 非GPS下のドローン自律航行と深層学習を活用したダム堤体劣化調査 |
| 30 | (株)吉田測量設計 | グリーンレーザを活用したi-Conへの取り組み | ドローン搭載型グリーンレーザースキャナを用いた河川維持管理 |

東北地方整備局HPより抜粋（公表名簿順）

令和3年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 局長表彰 一覧

| 請負業者名 | 業 務 名 | 技術者氏名 | 企業所在地 | 所管事務所 | 業務区分 |
|---|---------------------------|--------------------|------------|-------------------|---------------------|
| 国際航業(株) 盛岡支店 | 岩手管内道路点検・補修設計業務 | (管理技術者) 大粒米 茂樹 | 岩手県 盛岡市 | 岩 手 河川国道 | 土 木 (道路) |
| エイト技術(株) | 金ヶ崎拡幅（西根南羽沢地区）用地 調査等業務 | (主任担当者) 柳 沢 辰次 | 青森県 八戸市 | 岩 手 河川国道 | 補 償 |
| (株)復建技術コンサルタント 盛岡支店 | 宮古盛岡横断道路構造物詳細設計 業務 | (管理技術者) 高 橋 智 | 岩手県 盛岡市 | 岩 手 河川国道 | 土 木 (道路) |
| 三陸沿岸道路事業監理業務 東北地域づくり・エイト日技・ 鉄建設計共同体 | 三陸沿岸道路事業監理業務 (宮古箱石工区) | (管理技術者) 松 野 敏行 | 仙台市 青葉区 | 三陸国道 | 土 木 (その他(発注者支援)) |
| 三陸沿岸道路事業監理業務 みちのく・復建・三協・戸田設 計共同体 | 三陸沿岸道路事業監理業務 (宮古田老工区) | (管理技術者) 佐 藤 利美 | 仙台市 青葉区 | 三陸国道 | 土 木 (その他(発注者支援)) |
| 三陸沿岸道路事業監理業務 工営・関東・大成・福山設計 共同体 | 三陸沿岸道路事業監理業務 (洋野工区) | (管理技術者) 林 伸 一 | 岩手県 盛岡市 | 三陸国道 | 土 木 (その他(発注者支援)) |
| エイト技術(株) | 野田東地区地盤変動影響調査等業務 | (主任担当者) 大 村 俊昭 | 青森県 八戸市 | 三陸国道 | 補 償 |
| (株)福山コンサルタント 北東北事務所 | 三陸国道管内整備効果検討業務 | (管理技術者) 平 柳 圭 | 岩手県 盛岡市 | 三陸国道 | 土 木 (道路) |
| 東邦技術(株) | 南三陸国道管内災害対策設計業務 | (管理技術者) 照 井 繁 | 秋田県 大仙市 | 南三陸沿 岸 道 道 | 土 木 (道路) |
| (株)復建技術コンサルタント | 復興道路復興支援道路活用促進 検討業務 | (管理技術者) 福 山 佐恵子 | 仙台市 青葉区 | 仙 台 河川国道 | 土 木 (道路) |
| 三陸沿岸道路事業監理業務 大日本コンサルタント・北光コ ンサル・西松建設設計共同体 | 三陸沿岸道路事業監理業務 (歌津本吉工区) | | 岩手県 盛岡市 | 仙 台 河川国道 | 土 木 (道路) |
| パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社 | 名取川河川計画検討業務 | (管理技術者) 堀 合 孝博 | 仙台市 青葉区 | 仙 台 河川国道 | 土 木 (河川) |
| 仙台都市圏交通接点調査検討業 務 中央復建コンサルタンツ・ みずほ総合研究所設計共同体 | 仙台都市圏交通結節点調査検討業務 | (管理技術者) 吉 岡 正人 | 仙台市 青葉区 | 仙 台 河川国道 | 土 木 (道路) |
| (株)東京建設コンサルタント 東北支社 | 三陸沿岸道路 気仙沼唐桑地域道路 設計業務 | (管理技術者) 滝 澤 稔 | 仙台市 青葉区 | 仙 台 河川国道 | 土 木 (道路) |
| (株)復建技術コンサルタント | 丸森地区道路設計業務 | (管理技術者) 江 口 健二郎 | 仙台市 青葉区 | 宮城南 部 復 興 | 土 木 (道路) |
| (株)建設技術研究所 東北支社 | 鳴瀬川水系河川計画等検討業務 | (管理技術者) 飯 島 正顕 | 仙台市 青葉区 | 北 上 川 下流河川 | 土 木 (河川) |
| 旧北上川河口部景観設計等業 務建設環境研究所・プランニ ングネットワーク設計共同体 | 旧北上川河口部景観設計等業務 | (管理技術者) 松 本 泰人 | 東京都 豊島区 | 北 上 川 下流河川 | 土 木 (その他(景観)) |
| (株)アサノ大成基礎エンジニア リング東北支社 | 鳴瀬川総合開発付替道路中流部地質 調査業務 | (主任技術者) 遠 藤 則夫 | 仙台市 泉 区 | 鳴瀬川 総合 開 発 工 事 | 地 質 調 査 |

特 集

| 請負業者名 | 業 務 名 | 技術者氏名 | 企業所在地 | 所管事務所 | 業務区分 |
|---|-------------------------------------|-------------------|-------------|---------------|------------------|
| 秋田都市圏道路網調査検討業務 国際航業・道路計画設計共同体 | 秋田都市圏道路網調査検討業務 | (管理技術者) 阿部 義典 | 秋田県 秋田市 | 秋 田 河川国道 | 土 木 (道路) |
| バシフィックコンサルタンツ(株) 秋田事務所 | 八幡平山系緊急減災対策砂防 行動計画検討等業務 | (管理技術者) 澤田 悦史 | 秋田県 秋田市 | 湯 沢 河川国道 | 土 木 (砂防・地すべり) |
| 大曲鷹巣道路地質調査業務 川崎地質・奥山ボーリング設 計共同体 | 大曲鷹巣道路地質調査業務 | (主任技術者) 太田 史朗 | 秋田県 秋田市 | 能 代 河川国道 | 地質調査 |
| 成瀬ダム右岸上流管理用通路設計業務 オリエンタルコンサルタンツ・アサノ大 成基礎エンジニアリング設計共同体 | 成瀬ダム右岸上流管理用通路 設計業務 | (管理技術者) 審良 郁夫 | 秋田県 秋田市 | 成瀬ダム 工 事 | 土 木 (道路) |
| (株)建設技術研究所 東北支社 | 鳥海ダム社会環境調査業務 | (管理技術者) 鶴野 勝巳 | 仙台市 青葉区 | 鳥海ダム 工 事 | 土 木 (ダム) |
| (株)復建技術コンサルタント 山形支店 | 山形管内橋梁補修補強設計業務 | (管理技術者) 鈴木 勝浩 | 山形県 山形市 | 山 形 河川国道 | 土 木 (道路) |
| 日本工営(株) 仙台支店 | 山形管内防災点検業務 | (管理技術者) 小林 基比古 | 仙台市 青葉区 | 山 形 河川国道 | 土 木 (道路) |
| 新和設計(株) | 古口地区測量業務 | (主任技術者) 齋藤 恵太 | 山形県 米沢市 | 山 形 河川国道 | 測 量 |
| (株)三和技術コンサルタント | 最上川上流流量調査・縦横断測量 (村山地区) | (主任技術者) 小野 光弘 | 山形県 村山市 | 山 形 河川国道 | 測 量 |
| (株)建設技術研究所 山形事務所 | 最上川上流洪水解析検討業務 | (管理技術者) 中嶋 洋平 | 山形県 山形市 | 山 形 河川国道 | 土 木 (河川) |
| (株)片平新日本技研 山形事務所 | 酒田北地区道路設計業務 | (管理技術者) 山西 宏治 | 山形県 山形市 | 酒 田 河川国道 | 土 木 (道路) |
| 相馬福島道路(霊山～福島)事業 監理業務 セントラル・大林・公 共用地補償機構・鴻池設計共同体 | 相馬福島道路(霊山～福島)事業 監理業務 | (管理技術者) 松本 隆宏 | 福島県 福島市 | 福 島 河川国道 | 土 木 (道路) |
| 東京コンサルタンツ(株) 東北支店 | 阿武隈川上流福島管内樋門等構造物 設計業務 | (管理技術者) 松川 秀敏 | 仙台市 青葉区 | 福 島 河川国道 | 土 木 (河川) |
| 陸奥テックコンサルタント(株) | 阿武隈川上流伊達地区定期横断測量 | (主任技術者) 武藤 吉秀 | 福島県 郡山市 | 福 島 河川国道 | 測 量 |
| (株)ドーコン 福島事務所 | 伊達拡幅事業認定申請図書作成業務 | (主任担当者) 春木 明男 | 福島県 いわき市 | 福 島 河川国道 | 補 償 |
| 中央コンサルタンツ(株) 仙台支店 | 会津若松管内電線共同溝設計業務 | (管理技術者) 前田 修 | 仙台市 青葉区 | 郡山国道 | 土 木 (道路) |
| 応用地質(株) 東北事務所 | 三春ダム水辺現地調査(底生生物及び 動植物プランクトン調査)業務 | (管理技術者) 沖津 二郎 | 仙台市 宮城野区 | 三春ダム 管 理 所 | 土 木 (環境調査) |
| 岩手管内橋梁点検業務 福山 コンサルタント・ウヌマ地域 総研設計共同体 | 岩手管内橋梁点検業務 | (管理技術者) 宮村 正樹 | 仙台市 青葉区 | 東北技術 | 土 木 (橋梁) |
| 東北管内設計波浪検討業務 沿 岸技術研究センター・エコー・日 本港湾コンサルタント設計共同体 | 東北管内設計波浪検討業務 | (管理技術者) 田所 篤博 | 東京都 港区 | 仙台技調 | 港 湾 (計画調査) |

東北地方整備局HPより抜粋（公表名簿順）

令和3年度 東北支部会員 東北地方整備局 優良業務 事務所長表彰 一覧

| 請負業者名 | 業 務 名 | 技術者氏名 | 企業所在地 | 所管事務所 | 業務区分 |
|---|----------------------------|-------------------|---------------|---------------|---------------------|
| (株)福山コンサルタント 東北支店 | 青森管内交通円滑化検討業務 | (管理技術者) 中嶋 雄介 | 仙台市 青葉区 | 青 森 河川国道 | 土 木 (道路) |
| パシフィックコンサルタンツ(株) 青森事務所 | 高瀬川管内河川管理施設補修設計 業務 | (管理技術者) 佐久間 謙史 | 青森県 青森市 | 高瀬川 河 川 | 土 木 (河川) |
| (株)建設技術研究所 盛岡事務所 | 一関遊水地関連施設等設計業務 | (管理技術者) 巽 龍太郎 | 岩手県 盛岡市 | 岩 手 河川国道 | 土 木 (河川) |
| 昭和土木設計・復建技術設計 共同体 | 水沢地区他道路設計業務 | (管理技術者) 牧 野 仁 | 岩手県 紫波郡矢巾町 | 岩 手 河川国道 | 土 木 (道路) |
| (株)近代設計 岩手営業所 | 津志田電線共同溝設計業務 | (管理技術者) 根 本 顕 | 岩手県 盛岡市 | 岩 手 河川国道 | 土 木 (道路) |
| (株)建設技術研究所 盛岡事務所 | 三陸沿岸地域環境調査 | (管理技術者) 石 毛 孝慈 | 岩手県 盛岡市 | 三陸国道 | 土 木 (道路) |
| サンコーコンサルタント(株) | 宮古地区水文調査 | (主任技術者) 金 森 潤 | 岩手県 花巻市 | 三陸国道 | 地質調査 |
| セントラルコンサルタント(株) 東北支社盛岡営業所 | 宮古・久慈管内電線共同溝検討業務 | (管理技術者) 野 村 徹 | 岩手県 盛岡市 | 三陸国道 | 土 木 (道路) |
| 三陸国道管内道路管理・交通安全 事業外監理業務 東北地域づくり・ エイト日本技術開発設計共同体 | 三陸国道管内道路管理・交通安全 事業外監理業務 | (管理技術者) 加 藤 武男 | 仙台市 青葉区 | 三陸国道 | 土 木 (その他(発注者支援)) |
| (株)ドーコン 岩手事務所 | 釜石・大船渡管内電線共同溝検討 業務 | (管理技術者) 金 野 和浩 | 岩手県 盛岡市 | 三陸国道 | 土 木 (道路) |
| (株)パスコ 盛岡支店 | 三陸管内道路基盤地図整備業務 | (主任技術者) 奥 隅 保幸 | 岩手県 盛岡市 | 三陸国道 | 測 量 |
| (株)ウヌマ地域総研 盛岡支社 | 三陸沿岸南地区調査設計業務 | (管理技術者) 藤 田 勝 | 岩手県 盛岡市 | 三陸国道 | 土 木 (道路) |
| 大槌山田地区道路台帳整備業 務 国際航業・北栄調査設計 設計共同体 | 大槌山田地区道路台帳整備業務 | (主任技術者) 花 田 睦美 | 岩手県 盛岡市 | 南 三 陸 沿岸国道 | 測 量 |
| 日本工営(株) 北東北事務所 | 南三陸水文調査 | (主任技術者) 高 橋 昌弘 | 岩手県 盛岡市 | 南 三 陸 沿岸国道 | 地質調査 |
| (株)復建技術コンサルタント | 三陸沿岸道路 気仙沼湾横断橋維持 管理検討業務 | (管理技術者) 飯 土 井剛 | 仙台市 青葉区 | 仙 台 河川国道 | 土 木 (橋梁) |
| パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社 | 仙塩地区電線共同溝事業支援業務 | (管理技術者) 村 松 和也 | 仙台市 青葉区 | 仙 台 河川国道 | 土 木 (その他(発注者支援)) |
| 仙台河川国道管内交通安全事 業外監理業務 東北地域づく り・近代設計設計共同体 | 仙台河川国道管内交通安全事業外監 理業務 | (管理技術者) 藤 原 久 | 仙台市 青葉区 | 仙 台 河川国道 | 土 木 (その他(発注者支援)) |
| 国際航業(株) 仙台支店 | 仙台湾南部海岸航空レーザー測量等 業務 | (主任技術者) 塚 原 聡平 | 仙台市 若林区 | 仙 台 河川国道 | 測 量 |

特 集

| 請負業者名 | 業 務 名 | 技術者氏名 | 企業所在地 | 所管事務所 | 業務区分 |
|---------------------------|---------------------------|-------------------|-------------|-------------------------------|--------------------|
| (株)長大 仙台支社 | 宮城北部地区橋梁補修他設計業務 | (管理技術者) 野本 淳也 | 仙台市 若林区 | 仙 台 河川国道 | 土 木 (橋梁) |
| (株)吉田測量設計 | 国道349号(耕野地区)用地調査等 業務 | (主任担当者) 田家 秀紀 | 岩手県 盛岡市 | 宮城南 部復 興 | 補 償 |
| 三井共同建設コンサルタント (株) 東北支社 | 内川等構造物調査設計(その2) 業務 | (管理技術者) 平 和 博 | 仙台市 青葉区 | 宮城南 部復 興 | 土 木 (河川) |
| 川崎地質(株) 北日本支社 | 丸森地区地質調査業務(その1) | (主任技術者) 磯 高 之 | 仙台市 宮城野区 | 宮城南 部復 興 | 地質調査 |
| (株)東建工営 | 北上川・鳴瀬川維持関係技術資料 作成業務 | (管理技術者) 高橋 忠男 | 宮城県 名取市 | 北 上 川 下 流 | 土木 (その他(発注者支援)) |
| 三井共同建設コンサルタント (株) 東北支社 | 吉田川中流河道掘削詳細設計業務 | (管理技術者) 横川 勝美 | 仙台市 青葉区 | 北 上 川 下 流 | 土 木 (河川) |
| 東邦技術(株) | 吉田川事業認定申請図書作成等業務 | (主任担当者) 川崎 満 | 秋田県 大仙市 | 北 上 川 下 流 | 補 償 |
| (株)パスコ 仙台支店 | 北上川下流管内基盤図作成業務 | (主任技術者) 近 政 英 | 仙台市 宮城野区 | 北 上 川 下 流 | 測 量 |
| (株)建設技術研究所 東北支社 | 鳴瀬川総合開発基本計画検討業務 | (管理技術者) 高木 秀治 | 仙台市 青葉区 | 鳴 瀬 川 総 合 開 発 工 事 事 務 所 | 土 木 (ダム) |
| (株)ニュージェック 東北支店 | 鳴瀬川総合開発漆沢ダム事業計画 検討業務 | (管理技術者) 山下 貴裕 | 仙台市 青葉区 | 鳴 瀬 川 総 合 開 発 工 事 事 務 所 | 土 木 (ダム) |
| (株)建設環境研究所 東北支社 | 雄物川下流・子吉川水辺現地調査 (魚類)業務 | (管理技術者) 町田 禎之 | 仙台市 宮城野区 | 秋 田 河川国道 | 土 木 (環境調査) |
| (株)寒河江測量設計事務所 | 港湾(維持管理計画調査) | (主任担当者) 滝田 健一 | 山形県 寒河江市 | 秋 田 河川国道 | 補 償 |
| (株)復建技術コンサルタント 秋田支店 | 港湾(計画調査) | (管理技術者) 飯土井 剛 | 秋田県 秋田市 | 秋 田 河川国道 | 土 木 (橋梁) |
| (株)建設技術研究所 秋田事務所 | 子吉川河道整備計画検討業務 | (管理技術者) 高坂 保孝加 | 秋田県 秋田市 | 秋 田 河川国道 | 土 木 (河川) |
| セントラルコンサルタント(株) 秋田営業所 | 観音森こ道橋設計検討業務 | (管理技術者) 佐藤 宗孝 | 秋田県 秋田市 | 秋 田 河川国道 | 土 木 (橋梁) |
| 創和技術(株) | 河辺地区測量業務 | (主任技術者) 三浦 裕之 | 秋田県 秋田市 | 秋 田 河川国道 | 測 量 |
| (株)福山コンサルタント 秋田営業所 | 秋田管内道路計画資料作成業務 | (管理技術者) 平柳 圭 | 秋田県 秋田市 | 秋 田 河川国道 | 土 木 (道路) |
| 東邦技術(株) | 秋田河川国道向野地区外用地補償 総合技術業務 | (主任担当者) 川崎 満 | 秋田県 大仙市 | 秋 田 河川国道 | 補 償 |
| 中央復建コンサルタンツ(株) 東北支社 | 雄勝地区トンネル詳細設計業務 | (管理技術者) 宮城 大助 | 仙台市 青葉区 | 湯 沢 河川国道 | 土 木 (トンネル) |

| 請負業者名 | 業 務 名 | 技術者氏名 | 企業所在地 | 所管事務所 | 業務区分 |
|---|-------------------------|-------------------|--------------------|-----------------|---------------------|
| (株)庄内測量設計舎 | 真室川雄勝道路補償説明業務 | (主任技術者) 星 康 広 | 山形県 庄内町 | 湯 沢 河川国道 | 補 償 |
| 柴田工事調査(株) | 雄物川上流河川測量業務 | (主任技術者) 岡田 哲也 | 秋田県 湯沢市 | 湯 沢 河川国道 | 測 量 |
| (株)福山コンサルタント 秋田営業所 | 能代管内整備効果把握検討業務 | (管理技術者) 平 柳 圭 | 秋田県 秋田市 | 湯 沢 河川国道 | 土 木 (道路) |
| (株)ニュージェック 秋田事務所 | 森吉山ダム堤体挙動解析等業務 | (管理技術者) 大野 健一 | 秋田県 秋田市 | 能 代 河川国道 | 土 木 (ダム) |
| セントラルコンサルタント(株) 秋田営業所 | 二ツ井種地区道路予備設計業務 | (管理技術者) 三浦 康孝 | 秋田県 秋田市 | 能 代 河川国道 | 土 木 (道路) |
| 成瀬ダム景観検討業務 東京 建設コンサルタント・水源地 環境センター設計共同体 | 成瀬ダム景観検討業務 | (管理技術者) 井上 大介 | 東京都 豊島区 | 成瀬ダム工事 事 務 所 | 土 木 (その他(景観)) |
| 日本工営(株) 秋田事務所 | 成瀬ダム堤体補足設計業務 | (管理技術者) 中村 浩之 | 秋田県 秋田市 | 成瀬ダム工事 事 務 所 | 土 木 (ダム) |
| (株)ニュージェック 秋田事務所 | 成瀬ダムグラウチング解析業務 | (管理技術者) 新家 拓史 | 秋田県 秋田市 | 成瀬ダム工事 事 務 所 | 土 木 (ダム) |
| (株)ドーコン 東北支店 | 鳥海ダム CSG 試験施工監理業務 | (管理技術者) 星野 朋宏 | 仙台市 青葉区 | 鳥海ダム | 土 木 (ダム) |
| (株)ダイヤコンサルタント 東北支社 | 鳥海ダム左岸下流地質調査業務 | (主任技術者) 伊藤 靖雄 | 仙台市 青葉区 | 鳥海ダム | 地質調査 |
| (株)復建技術コンサルタント 山形支店 | 東根・村山地区水文調査業務 | (主任技術者) 村上 智昭 | 山形県 山形市 | 山 形 河川国道 | 地質調査 |
| 応用地質(株) 山形営業所 | 高屋地区地質調査検討業務 | (主任技術者) 境 正 樹 | 山形県 山形市 | 山 形 河川国道 | 地質調査 |
| (株)東建工営 | 山形東北中央道外現場技術資料作成 業務 | (管理技術者) 吉田 博史 | 宮城県 名取市 | 山 形 河川国道 | 土 木 (その他(発注者支援)) |
| (株)庄内測量設計舎 | 押切地区築堤用地調査等業務 | (主任担当者) 中村 眞輝 | 山形県 東田川郡 庄内町 | 山 形 河川国道 | 補 償 |
| (株)協和コンサルタンツ 山形営業所 | 真室川雄勝道路設計業務 | (管理技術者) 上田 浩司 | 山形県 山形市 | 山 形 河川国道 | 土 木 (道路) |
| (株)福山コンサルタント 山形営業所 | 酒田管内道路整備効果検討業務 | (管理技術者) 原田 慎也 | 山形県 村山市 | 酒 田 河川国道 | 土 木 (道路) |
| (株)ウヌマ地域総研 | 酒田河川国道事務所用地補償総合技 術業務 | (主任担当者) 渡邊 謙吾 | 秋田県 秋田市 | 酒 田 河川国道 | 補 償 |
| (株)建設技術研究所 東北支社 | 赤川河道計画等検討業務 | (管理技術者) 高坂 保孝加 | 仙台市 青葉区 | 酒 田 河川国道 | 土 木 (河川) |
| パシフィックコンサルタンツ(株) 山形事務所 | 庄内地区路線検討業務 | (管理技術者) 加藤 良彦 | 山形県 鶴岡市 | 酒 田 河川国道 | 土 木 (道路) |

特 集

| 請負業者名 | 業 務 名 | 技術者氏名 | 企業所在地 | 所管事務所 | 業務区分 |
|---------------------------------|--------------------------------|-------------------|-------------|------------|--------------------|
| 国際航業(株) 山形営業所 | 酒田管内防災点検業務 | (管理技術者) 近藤 敏光 | 山形県 山形市 | 酒田 河川国道 | 土木 (道路) |
| (株)東京建設コンサルタント 東北支社 | 新庄管内土砂洪水氾濫対策検討業務 | (管理技術者) 都丸 真人 | 仙台市 青葉区 | 新庄河川 | 土木 (砂防・地すべり) |
| (株)建設技術研究所 東北支社 | 新庄管内河川整備検討業務 | (管理技術者) 根本 徹 | 仙台市 青葉区 | 新庄河川 | 土木 (河川) |
| (株)建設技術研究所 東北支社 | 阿武隈川上流河川整備検討業務 | (管理技術者) 高見 隆三 | 仙台市 青葉区 | 福島 河川国道 | 土木 (河川) |
| (株)ダイヤコンサルタント 東北支社 | 福島管内トンネル点検業務 | (管理技術者) 杉浦 高広 | 仙台市 青葉区 | 福島 河川国道 | 土木 (トンネル) |
| 日本工営(株) 福島事務所 | 福島管内道路構造物点検補修設計 業務 | (管理技術者) 尾崎 裕司 | 福島県 福島市 | 福島 河川国道 | 土木 (道路) |
| セントラルコンサルタント・ ダイワ技術サービス設計共同体 | 阿武隈川水系白津川第5砂防堰堤等 設計業務 | (管理技術者) 川上 浩一 | 福島県 福島市 | 福島 河川国道 | 土木 (砂防・地すべり) |
| 川崎地質(株) 北日本支社 | 大森地区外地質調査業務 | (主任技術者) 太田 史朗 | 仙台市 宮城野区 | 福島 河川国道 | 地質調査 |
| (株)庄内測量設計舎 | 水沢第1砂防堰堤用地調査等業務 | (主任担当) 中村 眞輝 | 山形県 庄内町 | 福島 河川国道 | 補償 |
| (株)吉田測量設計 | 伊達拡張用地調査等業務 | (管理技術者) 及川 真宏 | 岩手県 盛岡市 | 福島 河川国道 | 補償 |
| (株)東建工営 | 福島地区砂防工事監督支援業務 | (管理技術者) 赤平 博喜 | 宮城県 名取市 | 福島 河川国道 | 土木 (その他(発注者支援)) |
| パシフィックコンサルタンツ(株) 福島事務所 | 福島管内道路調査業務 | (管理技術者) 烏頭尾 昌宏 | 福島県 郡山市 | 福島 河川国道 | 土木 (道路) |
| (株)建設環境研究所 東北支社 | 阿武隈川上流水辺現地調査(底生動物) 等業務 | (管理技術者) 沼沢 信一 | 仙台市 宮城野区 | 福島 河川国道 | 土木 (環境調査) |
| (株)オリエンタルコンサルタンツ 福島事務所 | 福島管内橋梁補修設計業務 | (管理技術者) 上野 大介 | 福島県 郡山市 | 福島 河川国道 | 土木 (橋梁) |
| (株)東京建設コンサルタント 福島事務所 | 阿武隈川上流郡山管内堤防強化検討 業務 | (管理技術者) 檀上 裕司 | 福島県 福島市 | 福島 河川国道 | 土木 (河川) |
| 応用地質(株) 東北事務所 | 福島管内道路状況調査業務 | (管理技術者) 石澤 伸彰 | 仙台市 宮城野区 | 福島 河川国道 | 土木 (環境調査) |
| 中央復建コンサルタンツ(株) 福島営業所 | 国見地区橋梁詳細設計業務 | (管理技術者) 森 彩 | 福島県 福島市 | 福島 河川国道 | 土木 (橋梁) |
| 東邦技術(株) | 会津若松地区地盤変動影響事前調査 等業務(一箕町地区) | (主任担当) 佐々木 好夫 | 秋田県 大仙市 | 郡山国道 | 補償 |
| 日本工営(株) 福島事務所 | 郡山国道管内附属物点検業務 | (管理技術者) 尾崎 裕司 | 福島県 福島市 | 郡山国道 | 土木 (道路) |

| 請負業者名 | 業 務 名 | 技術者氏名 | 企業所在地 | 所管事務所 | 業務区分 |
|---|-----------------------------|------------------|-------------|----------------------|-----------------|
| (株)福山コンサルタント 福島営業所 | 郡山国道管内整備効果検討業務 | (管理技術者) 原田 慎也 | 福島県 福島市 | 郡山国道 | 土 木 (道路) |
| (株)復建技術コンサルタント 福島支店 | 湯野上4号橋詳細設計業務 | (管理技術者) 鈴木 勝浩 | 福島県 郡山市 | 郡山国道 | 土 木 (橋梁) |
| (株)東コンサルタント | 磐城管内交通量基礎調査業務 | (主任技術者) 高橋 大樹 | 福島県 いわき市 | 磐城国道 | 測量 |
| (株)オリエンタルコンサルタンツ 福島事務所 | 勿来地区トンネル防災設備外設計 業務 | (管理技術者) 梶田 宏行 | 福島県 郡山市 | 磐城国道 | 土 木 (建設電気通信) |
| (株)パスコ 福島支店 | 磐城管内防災・構造物点検計画検討 業務 | (管理技術者) 大澤 昭久 | 福島県 福島市 | 磐城国道 | 土 木 (道路) |
| (株)福山コンサルタント 福島営業所 | 磐城管内道路整備計画検討業務 | (管理技術者) 鈴木 天 | 福島県 福島市 | 磐城国道 | 土 木 (道路) |
| (株)復建技術コンサルタント 福島支店 | 勿来地区測量設計業務 | (管理技術者) 山本 佳和 | 福島県 郡山市 | 磐城国道 | 土 木 (道路) |
| (株)キタコン | 岩木川ダム統合管理事務所流量観測 及び採水等作業 | (主任技術者) 藤田 欣裕 | 青森県 弘前市 | 岩木川ダム 統合管理 | 測 量 |
| (株)復建技術コンサルタント 盛岡支店 | 胆沢ダム水辺現地調査(陸上昆虫類 等)業務 | (管理技術者) 高田 英司 | 岩手県 盛岡市 | 北上川ダム 統合管理 事務所 | 土 木 (環境調査) |
| 川崎地質(株) 北日本支社 | 四十四田ダム再生ダムサイト 地質調査 | (主任技術者) 太田 史朗 | 仙台市 宮城野区 | 北上川ダム 統合管理 事務所 | 地質調査 |
| 田瀬ダム水質検討業務 建設 環境研究所・水源地環境セン ター設計共同体 | 田瀬ダム水質検討業務 | (管理技術者) 佐藤 隆善 | 東京都 豊島区 | 北上川ダム 統合管理 事務所 | 土 木 (ダム) |
| (株)建設技術研究所 東北支社 | 最上川水系ダム運用計画検討業務 | (管理技術者) 根本 徹 | 仙台市 青葉区 | 最上川ダム 統合管理 事務所 | 土 木 (ダム) |
| (株)ニュージェック 山形事務所 | 寒河江ダム総合点検業務 | (管理技術者) 新家 拓史 | 山形県 山形市 | 最上川ダム 統合管理 事務所 | 土 木 (ダム) |
| (株)寒河江測量設計事務所 | 寒河江ダム流量観測及び採水等調査 | (主任技術者) 鈴木 誠 | 山形県 寒河江市 | 最上川ダム 統合管理 事務所 | 測 量 |
| (株)パスコ 山形支店 | 寒河江ダム貯水池堆砂測量 | (主任技術者) 日吉 昌史 | 山形県 山形市 | 最上川ダム 統合管理 事務所 | 測 量 |
| (株)復建技術コンサルタント | 鳴子ダム水辺現地調査(陸上昆虫等) 業務 | (管理技術者) 南 陽介 | 仙台市 青葉区 | 鳴子ダム 管理 所 | 土 木 (環境調査) |
| いであ(株) 東北支店 | 小原地区管理用通路予備設計業務 | (管理技術者) 佐々木 貢 | 仙台市 青葉区 | 七ヶ宿ダム 管理 所 | 土 木 (道路) |
| 玉川ダム男神地区地質調査 奥山ボーリング・応用地質設 計共同体 | 玉川ダム男神地区地質調査 | (主任技術者) 伊藤 和広 | 秋田県 横手市 | 玉川ダム 管理 所 | 地質調査 |
| 応用地質(株) 東北事務所 | 月山ダム貯水池周辺地山観測監視 業務 | (管理技術者) 對馬 博 | 仙台市 宮城野区 | 月山ダム 管理 所 | 土 木 (ダム) |

| 請負業者名 | 業 務 名 | 技術者氏名 | 企業所在地 | 所管事務所 | 業務区分 |
|--------------------------|------------------------------|-------------------|------------|---------------|------------------|
| (株)庄内測量設計舎 | 月山ダム流量観測及び採水作業 | (主任技術者) 清野 正利 | 山形県 庄内町 | 月山ダム 管 理 所 | 測 量 |
| 新和設計(株) | 山形県内橋梁（溝橋）診断業務 | (管理技術者) 田 村 整 | 山形県 米沢市 | 東北技術 | 土 木 (橋梁) |
| 日本工営(株) 仙台支店 | 河道掘削手法等検討業務 | (管理技術者) 秋 田 麗子 | 仙台市 青葉区 | 東北技術 | 土 木 (河川) |
| パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社 | 東北東部地区河川管理施設点検調査 業務 | (管理技術者) 森 田 大作 | 仙台市 青葉区 | 東北技術 | 土 木 (河川) |
| (株)エイト日本技術開発 東北支社 | R2みちのく公園利用者満足度調査 分析等業務 | (管理技術者) 村 山 克也 | 仙台市 若林区 | 東 北 国営公園 | 土 木 (その他(造園)) |
| (株)アルファ水工コンサルタンツ | 酒田港防波堤効果検討業務 | (管理技術者) 堀 江 岳人 | 北海道 札幌市 | 酒田港湾 | 港 湾 (計画調査) |
| パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社 | 係留施設における重量物取扱いに 関する構造検討業務 | (管理技術者) 山 口 達治 | 仙台市 青葉区 | 仙台技調 | 港 湾 (設計) |

令和2年度 東北支部会員 i-construction 関係 受賞者

令和2年度 i-construction大賞 建コン東北支部会員受賞者

○i-Construction推進コンソーシアム会員の取組部門

| 表彰種類 | 受賞者 | 業務名 | 発注者 |
|------|-----------------|-----------------------------|-------------------------|
| 優秀賞 | 中央復建コンサルタンツ株式会社 | 2019年度 新東名高速道路3Dモデル活用検討支援作業 | 中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社 |

令和2年度 みちのく i-Construction 奨励賞 建コン東北支部会員受賞者

○工事・業務部門（東北地方整備局発注）

| 受賞者 | 業務名 | 発注者 |
|------------------------------|----------------------|--------------|
| 株式会社 アサノ大成基礎エンジニアリング 東北支社 | 鳴瀬川総合開発付替国道下流部地質調査業務 | 鳴瀬川総合開発工事事務所 |

○工事・業務部門（地方公共団体発注）

| 受賞者 | 業務名 | 発注者 |
|-------------------|------------------------|-----|
| 株式会社オリエンタルコンサルタンツ | 宮古管内海岸保全施設長寿命化計画作成業務委託 | 岩手県 |

令和3年度 講演会

令和3年11月19日(金) 13:15~17:00

テーマ

「東日本大震災から10年」

～これからの東北・これからの災害に備えて～



講師

渡邊 享子 氏

株式会社 巻組

「リユースとシェアによる
持続可能な住宅づくり」

講演時間【13:30～14:20】



講師

友永 公生 氏

高知県黒潮町

「逆境と向き合う
黒潮町の取り組みについて」

講演時間【14:25～15:25】



講師

佐藤 翔輔 氏

東北大学災害科学国際研究所

「東北の災害伝承」
～あの日までとあの日から～

講演時間【15:40～16:50】

会場 ホテル法華クラブ仙台 1階 ハーモニーホール

参加対象者 一般者及び企業の皆様、学校関係者（学生を含む）、
官公庁の皆様、建設コンサルタンツ協会会員

参加費 無料

定員 50名(先着順) ※新型コロナ対策のため、前後左右の間隔を取ります
(建コン東北支部会員は、後日ホームページ上で当日のビデオが視聴可能となります。)

申込方法 裏面の申込書により、FAX、またはEメールでお申し込みください。

申込締切日 令和3年11月1日(金)

申込問合先 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 (担当: 淀川、小川)
(本講演会は、一般社団法人建設コンサルタンツ協会 CPD プログラムとして認定されています。
なお、ビデオ視聴の場合は「自己学習」としての形態となりますが、取得できるCPD単位は変わりございません。)

会場
案内

ホテル
法華クラブ仙台
〒980-0014
宮城県仙台市青葉区本町2-11-30
仙台駅西口から徒歩約8分
地下鉄勾当台公園から徒歩約5分



主催/一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部
後援/国土交通省東北地方整備局
河北新報社、日刊建設工業新聞社東北支社、
日刊建設通信新聞社東北支社、建設新聞社、
日本建設新聞社仙台総局
協賛/公益社団法人 土木学会東北支部
公益社団法人 日本技術士会東北本部

(順不同)

お問合せ
・申込先

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部

Tel.022-263-6820 Fax.022-222-4574 E-mail:thinfo@th.jcca.or.jp



『事務局長離任にあたって』

前事務局長 新野 俊 晴

建コン東北支部で事務局長をしておりました新野と申します。令和3年6月30日までの6年間、会員の皆様には大変お世話になりましたが、この度退職いたしました。この間の会員皆様からのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

この6年を振り返りますと、建設コンサルタント業界を取り巻く社会的環境は激変の時代だと思っております。

一点目は、労基法改正による「働き方改革」により社員の残業時間の制限等々により企業経営においても改革が求められる一方、発注者においてもそれに対応するための制度改正等が行われました。建コン支部としてこのような状況に対応すべく、国・各県及び仙台市との意見交換会において、それぞれの発注者の状況を踏まえた要望と提案を行い、受発注者協同での取組が進んだのではないかと考えております。

二点目は、自然災害の頻発化・甚大化・広域化が進む中で、建コン支部に対する支援要請が急増いたしました。特に一昨年の台風19号では、被害地域は福島・宮城・岩手各県におよび、短期間での災害対応業務が集中しましたが、会員の皆様のご協力により困難な業務を完了できました。一方、建コン支部としても発注者に対し「繰越しの活用」や手持ち業務としてのノー

カウント等々の緊急要望を行い、ご理解を得るなど後方支援の活動を行いました。私が着任した6年前は、災害支援実績は国と宮城県だけでしたが、今では国・東北全県で対応しました。これも建コン支部会員の協力のお陰であり感謝申し上げます。

三点目は、誰も想像していなかった「新型コロナウイルス感染症」の発生と拡大です。昨年1月には国内でも確認されましたが、まさかその後において、建コン支部の定時総会や各種講習会の中止等々の対応をとらざるを得なくなるとは考えてもいませんでした。このような状況の中で今後の支部活動を継続的に実施するため、令和2年度中に支部単独のサーバー等を設置し、その中でビデオ講習会を可能とするなど「アフターコロナ」に備えたシステムを構築することができました。今後、その中に各種情報を掲載することにより支部会員皆様にご利用いただける場となれば幸いです。

最後になりますが、会員の皆様の今後の益々のご発展とご健勝を心からお祈り申し上げますとともに、会報誌の誌面でのあいさつとなり大変申し訳ございませんが、改めてこの6年間の皆様からのご指導・ご協力に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



『事務局長就任にあたって』

事務局長 淀川 政晴

令和3年6月から、新野事務局長の後任としてお世話になっております「淀川政晴」（よどかわまさはる）と申します。どうぞよろしくお願いたします。

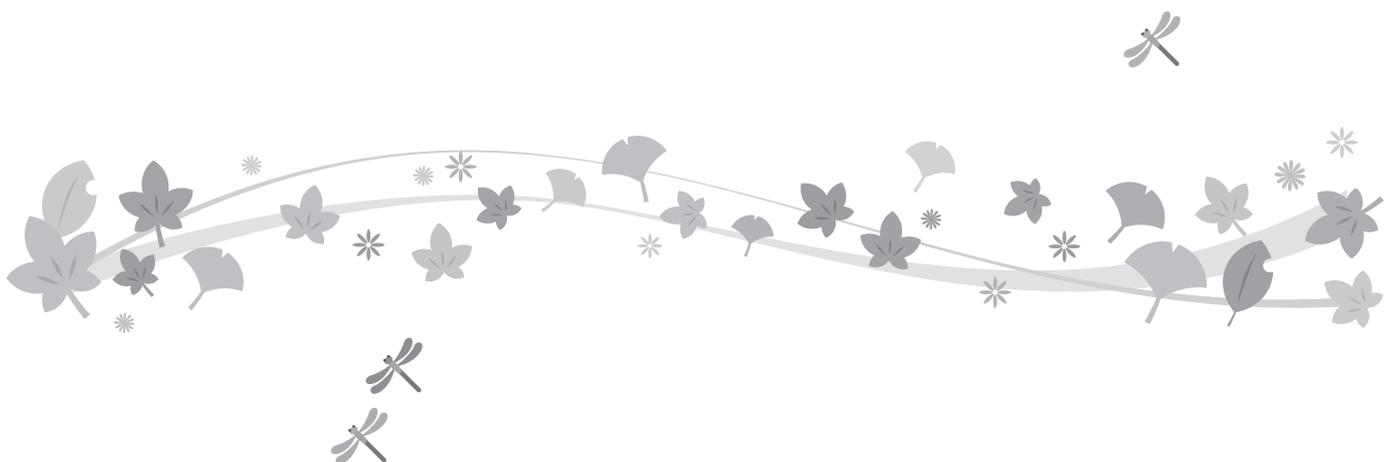
1961年（昭和36年）3月生まれの現在60歳で、この3月まで東北地方整備局に勤務しておりました。職務としましては、主に道路行政、用地補償、人事・総務関係等に携わりましたが、後半はコンプライアンス関係も含めた人事・総務関係の業務が多かったです。特に最後の年は、働き方改革にも関連し新型コロナウイルス感染症対策としての「テレワーク」の仕組み作りに奔走いたしました。

こちらにお世話になってからも、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、役員の方々はじめ皆様となか

なか顔を合わせる機会がなく心苦しく思っておりますが、コロナが収束して皆様と一緒に懇談できる日が早く来るよう心待ちにしております。

出身は、山形県の内陸にある村山市というところで、特に何もない山村で、「そば」「さくらんぼ」「十四代」が名産品としてあげられますが、残念ながら「十四代」は地元では手に入りません。（お酒好きの方、申し訳ありません。）

これから、建設コンサルタント業界の皆様と発注者の方々との橋渡しや、会員会社や所属社員の皆様に対して少しでもお役に立てるよう微力ながら努力していきたいと思っておりますので、皆様からのご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



JCCA TOHOKU 寄稿文募集

JCCA 読者の皆様には、本誌をご愛読いただきありがとうございます。

一般社団法人建設コンサルタンツ協会東北支部では、年2回（4月・10月）広報誌「JCCA TOHOKU」を出版させていただきます。

本広報の記事は、東北支部の広報委員が編集会議を経て会員企業や関係各位への原稿依頼を行い成り立っているところでございます。

そのうえで、編集者が把握できかねる情報も多々あると思われまますので、広く会員の皆様からの情報や、会員企業のお声を本誌でご紹介したく考えており、皆様からのご寄稿をお願いしているところでございます。

ご寄稿いただく記事内容といたしましては、以下を考えておりますが、これに限らず奮ってご寄稿をお願いいたします。

1. 技術特集（独自の技術や創意工夫、苦労した設計等）
2. 海外紀行
3. 私の趣味（会員の皆さまより、ご自身の趣味をご紹介ください）
4. 我が社のPR（ご自身の会社のPRや紹介したい人物等）
5. 地域発信（ご自身の地域のホットな話題や地域行事、名所旧跡等）
6. 若手技術者、女性技術者、ベテラン技術者からの声
7. 技術士取得奮戦記
8. 部会活動報告（部会の活動、現場見学会等）
9. その他建コンに關係する話題

また、このような特集を組んでほしい等のご要望もございましたら、お気軽に広報委員にお声がけ戴きますようお願いいたします。

「JCCA TOHOKU」は読者の皆様のご要望に応え、皆様のお役に立てる広報誌との位置づけを目指してこれからも発行いたして参りますので、皆様からの多くのご寄稿並びにご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

令和3年度「建設コンサルタントの要望と提案」意見交換会

8月31日（火）WEB会議にて
本部と東北地方整備局・東北各県及び仙台市との意見
交換会を開催しました。

出席者

（東北地方整備局）

稲田局長、大野副局長、伊藤副局長、角湯企画部長、
大竹建政部長、小田原道路部長、木本港湾空港部長、
佐藤技術調整管理官、赤平技術開発調整官、
佐藤河川情報管理官、安部技術管理課長、

（青森県）宮本県土整備部 理事

（岩手県）田中県土整備部 部長

（宮城県）狩野土木部 副部長（技術担当）

（秋田県）小野建設部 技術管理課長

（山形県）前内県土整備部 部長

（福島県）猪俣土木部 部長

（仙台市）吉田都市整備局 技術管理室 室長

（建設コンサルタンツ協会）

野崎会長、重永副会長、酒井副会長、永治常任理事、
中村常任理事、新屋常任理事、花岡常任理事、
新井常任理事、高橋対活部会委員、堤安常任委員長、
江守対活副委員長、加本参与・企画部長
小幡業務部長、柳澤企画部次長

【WEB参加】田中常任理事（九州支部長）

（建設コンサルタンツ協会東北支部）

菅原支部長、向田副支部長、江藤対活委員長、
長南総務部会長、光森技術部会長、小澤情報部会長、
大木本部常任委員、淀川事務局長

はじめに東北地方整備局稲田局長および建コン野崎
会長の挨拶、次に出席者紹介があり、次の様な意見交
換がWeb会議で行われました。

意見交換

「建設コンサルタントの要望と提案」

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上



意見交換会WEB会議の様子

9月1日「災害時対応演習」(リモート)を実施

建設コンサルタンツ協会では例年、「災害時行動計画」に基づく対応演習を実施しておりますが、今年も「防災の日」である9月1日(水)に、大規模地震の発生を想定した演習が実施されることとなりました。

東北支部でも、この機会に独自の「令和3年度災害時対応演習計画」を作成し、対応演習を実施することといたしました。

今年も日本各地で大雨による災害等が多数発生しており、東北支部管内においても、台風9号から変わった温帯低気圧の影響により、8月10日、青森県下北地方を中心とした大雨に見舞われました。

橋の崩落や土砂崩れが相次ぎ、道路も寸断され一時住民が孤立するなど多大な被害が発生いたしました。

東北支部からも青森県からの「災害協定に基づく出動要請」を受け、現地への速やかな派遣を行うなど対応にあたったところです。

このような状況が今後も各地で想定されることでもあり、本年度は、三重県熊野灘沖で、マグニチュード9.0の大規模な地震が発生したとの想定のもと、中部支部に災害対策現地本部を設置し、本部、現地本部及び各支部をオンラインで繋いで次の項目について演習を実施いたしました。

- 1) 災害対策支部の設置及び解散
- 2) 連絡対象会員からの被災状況の収集
(社員、社屋及び業務上に関わる被災等)
- 3) 調査員派遣対象会員との現地調査員派遣の協議
- 4) 災害対策本部との支部設置・解散等の連絡
- 5) 災害対策本部との現地調査員派遣要請対応



- 6) 発注機関(東北地方整備局)からの災害協定に基づく支援要請対応
- 7) 会員各社の独自計画に基づく演習、及び「災害発生時点検・確認事項一覧表」による点検等
なお、2) 3) 7) につきましては、東北支部独自の訓練として、あらかじめ選定した数社の会員様のご協力をいただき、支部に参集した役員と実際に電話やFAXによりやり取りを行ったものです。

会員の皆様におかれましては、今回の訓練をご参考としていただき、災害発生に備えて日頃から是非シミュレーション等していただきますようよろしくお願いいたします。

「連絡会員」及び「災害現地調査会員」にご指名されました会員各社には、ご多忙の中ご協力いただきありがとうございますございました。

連絡会員

(株)ウヌマ地域総研、(株)キタコン、
(株)協和コンサルタンツ、協和設計(株)、(株)近代設計、
(株)国際開発コンサルタンツ、大和工営(株)、
(株)中央技術コンサルタンツ、
(株)東北開発コンサルタント、日栄地質測量設計(株)、
(株)福田水文センター、(株)ふたば

災害現地調査会員

応用地質(株)、(株)建設技術研究所、
(株)三和技術コンサルタント、昭和(株)、(株)東建工営、
陸奥テックコンサルタント(株)



リモートでの防災演習の様子

[支部だより]

4月8日(木)

令和2年度会計監査
場 所/支部会議室

4月8日(木)

第1回役員会(参集及びWeb会議)

場 所/支部会議室

議 題/(1) 役員選任(案)について
(2) 令和3年度支部総会について
(3) 各部会・委員会からの連絡事項その他
「議事案件」資料により承認。

4月16日(金)

第1回技術部会(部会長以上 参集及びWeb会議)

場 所/支部会議室

議 題/(1) 令和2年度活動報告及び3年度の活動に
ついて
(2) 技術部会専門委員会の改選について
(3) その他

4月21日(水)

令和3年度支部定時総会

議 題/(1) 令和2年度事業報告について
(2) 令和3年度事業計画について
(3) 令和3年度収支予算書について
(4) 令和2年度決算報告について
(5) 役員改選について
そ の 他

104社中 Webによる出席者17社 委任状83社合計
が100社となり、過半数52社を超え総会成立。「承認」
宮城県・仙台市に「まん延防止重点措置」(4月5日～
5月5日まで)が実施された事を踏まえた急遽の措置

5月18日(火)

第2回役員会(Web会議)

議 題/(1) 役員選任(案)について
(2) 各部会・委員会からの報告
(3) その他

5月19日(水)

第1回若手の会(集合及びWeb会議)

5月19日(水)

第1回情報部会(メールで確認)

議事および資料をメールにより配信し確認した。

議 題/(1) 各WG今年度の事業計画について
(2) 講習会Web配信等の作業について
(3) その他

5月26日(水)

第9回東北復興 i -Construction連絡調整会議

(Web会議)

6月1日(火)

第1回対外活動委員会(Web会議)

議 題/(1) 令和3年度活動計画について
(2) 要望と提案、本部と支部の意見交換会に
ついて
(3) その他

6月2日(水)～3日(木)

EE東北'21(参集及びWeb開催)

場 所/夢メッセみやぎ

入場者 2日間延べ人数 9,900名

(Web来場者6,600名)

6月14日(月)

第2回技術部会(部会長以上)

場 所/支部会議室

議 題/(1) 令和3年度技術部会事業計画
(2) 令和3年度技術部会事業報告
(3) そ の 他

6月15日(火)

第3回役員会(Web会議)

議 題/(1) 支部役員選任について
(2) 本部・整備局の意見交換会について
(3) その他

6月15日(火)～16日(水)

青森県建設技術センター令和3年度「土質研修会」

へ講師派遣

講師／安達 和徳 (応用地質株)
山田 満秀 (株ダイヤC)
早乙女 勉 (日本工営株)
細谷 健介 (新和設計株)

6月23日(水)

第2回若手の会 (集合及びWeb会議)

6月28日(月)

第1回地域コン委員会

場所／支部会議室

議題／(1) 本部地域コン委員会の報告
(2) 東北6県の総合評価落札方式他について
(3) その他

6月29日(火)

Teams ライブイベント説明会

6月29日(火)

福島県土木部職員専門研修「成果品のエラー

防止について」へ講師派遣

講師／石井 一人 (パシフィックC株)

7月7日(水)

道路専門委員会と秋田大学Web会議

7月7日(水)～9日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物等」へ講師派遣

講師／北原 一彦 (株オリエンタルC)
早乙女 勉 (日本工営株)
細谷 健介 (新和設計株)
向江 正夫 (株東京建設C)

7月8日(木)

第2回対外活動委員会 (Web会議)

議題／(1) 令和3年度活動計画について
(2) 意見交換会について
(3) その他

7月16日(金)

宮城県建設センター「基礎研修1 (構造物の設計)」

へ講師派遣

講師／石井 一人 (パシフィックC株)

7月20日(火)

第4回役員会 (Web会議)

議題／(1) 本部・整備局意見交換会について
(2) 各県意見交換会について
(3) 各分会・委員会からの連絡事項、その他

7月21日(水)

令和2年度東北地方整備局国土交通行政関係

功労者表彰式

東北地方整備局では国土交通行政関係功労者に対して表彰式を行っています。

本年度は優良業務施行会社として、次の会員の方々が受賞されました。誠にありがとうございます。

[優良業務施行会社]

国際航業株 盛岡支店

岩手管内道路点検・補修設計業務
エイト技術株

金ヶ崎拡幅 (西根南羽沢地区) 用地調査業務
野田東地区地盤変動影響調査等業務

(株)復建技術コンサルタント 盛岡支店

宮古盛岡横断道路構造物詳細設計業務

(株)エイト日本技術開発

三陸沿岸道路事業監理業務 (宮古箱石工区)

三協コンサルタント株

三陸沿岸道路事業監理業務 (宮古田老工区)

(株)復建技術コンサルタント

三陸沿岸道路事業監理業務 (宮古田老工区)

日本工営株

三陸沿岸道路事業監理業務 (洋野工区)

(株)福山コンサルタント

三陸沿岸道路事業監理業務 (洋野工区)

(株)福山コンサルタント 北東北事務所

三陸国道管内整備効果検討業務

東邦技術株

南三陸国道管内災害対策設計業務

(株)復建技術コンサルタント

復興道路復興支援道路利活用促進検討業務

丸森地区道路設計業務

大日本コンサルタント (株)

三陸沿岸道路事業監理業務 (歌津本吉工区)

パシフィックコンサルタンツ株 東北支社

名取川河川計画検討業務

中央復建コンサルタンツ株

仙台都市圏交通結節点調査検討業務

(株)東京建設コンサルタント 東北支社

三陸沿岸道路気仙沼唐桑地域道路設計業務

支部だより

(株)建設技術研究所 東北支社
鳴瀬川水系河川計画等検討業務
鳴海ダム社会環境調査業務

(株)建設環境研究所
旧北上川河口部景観設計業務

(株)アサノ大成基礎エンジニアリング 東北支社
鳴瀬川総合開発付替道路中流部地質調査業務

国際航業(株)
秋田都市圏道路網調査検討業務

パシフィックコンサルタンツ(株) 秋田事務所
八幡平山系緊急減災対策砂防行動計画検討業務

川崎地質(株)
大曲鷹巣道路地質調査業務

(株)オリエンタルコンサルタンツ
成瀬ダム右岸上流管理用通路設計業務

(株)アサノ大成基礎エンジニアリング
成瀬ダム右岸上流管理用通路設計業務

(株)復建技術コンサルタント 山形支店
山形管内橋梁補修補強設計業務

日本工営(株) 仙台支店
山形管内防災点検業務

新和設計(株)
古口地区測量業務

(株)三和技術コンサルタント
最上川上流流量調査・縦横断測量(村山地区)

(株)建設技術研究所 山形事務所
最上川上流洪水解析検討業務

(株)片平新日本技研 山形事務所
酒田北地区道路設計業務

セントラルコンサルタンツ(株)
相馬福島道路(霊山～福島)事業監理業務

東京コンサルタンツ(株) 東北支店
阿武隈川上流福島管内樋門等構造物設計業務

陸奥テックコンサルタント(株)
阿武隈川上流伊達地区定期横断測量

(株)ドーコン 福島事務所
伊達拡幅事業認定申請図書作成業務

中央コンサルタンツ(株) 仙台支店
会津若松管内電線共同溝設計業務

応用地質(株) 東北事務所
三春ダム水辺現地調査(底生動物及び動植物プランクトン調査)業務

(株)福山コンサルタント
岩手管内橋梁点検業務

(株)ウヌマ地域総研
岩手管内橋梁点検業務

7月27日(火)

宮城県建設技術センター「基礎研修2(土質調査の基本)」へ講師派遣

講師/安達 和徳(応用地質(株))
沖島 剛(株)復建技術C)
山口 淳熙(大日本C(株))

7月28日(水)～30日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物等」へ講師派遣

講師/北原 一彦(株)オリエンタルC)
早乙女 勉(日本工営(株))
細谷 健介(新和設計(株))
向江 正夫(株)東京建設C)

7月30日(金)

第3回若手の会(集合及びWeb会議)

8月2日(月)

6協会合同 独禁法研修会リモート説明会

(Web会議)

8月20日(金)

岩手県土木技術専門研修「橋梁/点検(診断)」

へ講師派遣

講師/石橋 努(株)復建技術C)

8月31日(火)

本部・整備局意見交換会(WEB会議)

東北地方整備局 稲田局長 他17名

本部 野崎会長 他14名

支部 菅原支部長 他10名

議題

1. 担い手確保・育成のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上

8月31日(火)

第4回若手の会(Web会議)

9月1日(水)

災害時対応演習 [11:00~14:30]

11:00中部支部管内においてマグニチュード9.0の大規模地震が発生し、災害対策東北支部を設置したとの想定で災害対策支部員を招集、本部・各支部とWEB会議にて演習を行いました。

会員の被災状況を把握するため、予め決めていた連絡会員会社12社へ携帯電話により被害状況照会、会員より被害状況をFAXで受信。

また、被災現地への派遣のため、予め決めていた災害現地調査派遣会員6社と協議・派遣等の訓練を実施した。

9月2日(木)

第1回広報委員会 (Web会議)

- 議 題／(1) 令和3年度講演会について
(2) JCCATOHOKUの編集について
(3) その他

9月3日(金)

第2回情報部会 (Web会議)

- 議 題／(1) 各WGからの報告
(2) みちのくGIDAS運営協議会総会および幹事会の報告
(3) 独禁法研修会(Web)の対応補助について

9月10日(金)

福島県土木部技術講習会「BIM/CIMの基礎(仮)」

へ講師派遣 (Web講習会)

講 師／市川 健 (株復建技術C)

9月21日(火)

第5回役員会 (Web会議)

- 議 題／(1) 各県との意見交換会について
(2) 各部会・委員会からの連絡事項
(3) その他

9月27日(月)

「独占禁止法」及び「メンタルヘルス」研修会

(ライブ配信)

- 主 催 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部、
(一社)宮城県測量設計業協会、
(一社)日本補償コンサルタント協会東北支部、
(公社)全国上下水道コンサルタント協会東北支部、
(一社)東北測量設計協会、
(一社)東北地質調査業協会 6団体の共催
出席者 413名 (建コン会員 140名)

9月29日(水)～10月1日(金)

岩手県土木技術専門研修「地質、道路、河川計画」

へ講師派遣

- 講 師／山田 満秀 (株ダイヤC)
榊原 信夫 (川崎地質株)
今野 篤 (株東京建設C)
村上 幸治 (株エイト日本技術開発)
岡田 篤 (大日本C株)
木村 重喜 (株オリエンタルC)

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 会員名簿

会員 10月現在 106社

| 会社名 | 事業所名 | 郵便番号・住所 | 電話番号 |
|--------------------|--------|------------------------------------|--------------|
| (株)アーバン設計 | 本社 | 〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26 | 024-961-7500 |
| (株)アサノ大成基礎エンジニアリング | 東北支社 | 〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6 | 022-343-8166 |
| 朝日航洋(株) | 東北空情支社 | 〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1 | 022-771-2382 |
| アジア航測(株) | 仙台支店 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28 | 022-216-3553 |
| (株)東コンサルタンツ | 本社 | 〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101 | 0246-23-8424 |
| (株)アルファ水工コンサルタンツ | 仙台事務所 | 〒985-0874 多賀城市八幡3-10-27 | 022-207-5300 |
| いであ(株) | 東北支店 | 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11 | 022-263-6744 |
| (株)ウエスコ | 東北事務所 | 〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8 | 022-797-5271 |
| (株)ウヌマ地域総研 | 本社 | 〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19 | 018-863-5809 |
| エイト技術(株) | 本社 | 〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10 | 0178-47-2121 |
| (株)エイト日本技術開発 | 東北支社 | 〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161 | 022-712-3555 |
| (株)エー | 仙台営業所 | 〒980-0003 仙台市青葉区小田原5-1-53-208 | 022-797-9718 |
| 応用地質(株) | 東北事務所 | 〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2 | 022-237-0471 |
| (株)オオバ | 東北支店 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4 | 022-261-8861 |
| (株)オリエンタルコンサルタンツ | 東北支社 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 | 022-215-5522 |
| 開発虎ノ門コンサルタンツ(株) | 東北支店 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24 | 022-292-5220 |
| (株)片平新日本技研 | 東北支店 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17 | 022-722-3130 |
| 川崎地質(株) | 北日本支社 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16 | 022-792-6330 |
| (株)菊池技研コンサルタンツ | 本社 | 〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8 | 0192-27-0835 |
| 基礎地盤コンサルタンツ(株) | 東北支社 | 〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23 | 022-291-4191 |
| キタイ設計(株) | 東北支社 | 〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53 | 022-343-5416 |
| (株)キタコン | 本社 | 〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1 | 0172-34-1758 |
| (株)キタツク | 仙台事務所 | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37 | 022-265-1051 |
| (株)橋梁コンサルタンツ | 東北事務所 | 〒963-8024 福島県郡山市朝日1-28-14 | 024-953-3667 |
| (株)協和コンサルタンツ | 東北支社 | 〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14 | 022-266-6073 |
| 協和設計(株) | 東北支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20 | 022-722-2235 |
| (株)近代設計 | 東北支社 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-12-12 | 022-207-2480 |
| (株)ケー・シー・エス | 東北支社 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2 | 022-224-1591 |
| (株)建設環境研究所 | 東北支社 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 | 022-292-6012 |
| (株)建設技術研究所 | 東北支社 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 | 022-261-6861 |
| (株)コウキコンサルタンツ | 本社 | 〒996-0902 福島県喜多方市松山町村松字小荒井道西405-10 | 0241-24-2701 |
| (株)構研エンジニアリング | 東北営業所 | 〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203 | 022-344-6231 |
| (株)郡山測量設計社 | 本社 | 〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3 | 024-952-5200 |
| (株)国際開発コンサルタンツ | 仙台支店 | 〒980-0011 仙台市青葉区一番町1-5-25 | 022-225-6201 |
| 国際航業(株) | 東北支社 | 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45 | 022-299-2801 |
| 国土防災技術(株) | 東北支社 | 〒984-0075 仙台市若林区清水小路6-1 | 022-216-2586 |
| (株)コサカ技研 | 本社 | 〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2 | 0178-27-3444 |
| (株)コンテック東日本 | 本社 | 〒030-0122 青森県青森市大字野尻今田91-3 | 017-738-9346 |
| (株)寒河江測量設計事務所 | 本社 | 〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1 | 0237-86-5520 |
| (株)サト一技建 | 本社 | 〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1 | 022-262-3535 |
| (株)三協技術 | 本社 | 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14 | 022-224-5503 |
| 三協コンサルタンツ(株) | 本社 | 〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1 | 023-655-5000 |
| サンコーコンサルタンツ(株) | 東北支店 | 〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2 | 022-273-4448 |
| (株)三和技術コンサルタンツ | 本社 | 〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21 | 0237-55-3535 |
| 柴田工事調査(株) | 本社 | 〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1 | 0183-73-7171 |
| (株)庄内測量設計舎 | 本社 | 〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9 | 0234-43-2459 |
| 昭和(株) | 東北支社 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-6-1 | 022-742-5301 |
| (株)昭和土木設計 | 本社 | 〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23 | 019-638-6834 |
| (株)新星コンサルタンツ | 東北支社 | 〒986-0859 石巻市大街道西1-7-11 | 0225-98-5850 |
| 新和設計(株) | 本社 | 〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880 | 0238-22-1170 |
| (株)新和調査設計 | 本社 | 〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12 | 024-934-5311 |
| JR東日本コンサルタンツ(株) | 東北支店 | 〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2 | 022-211-0872 |
| セントラルコンサルタンツ(株) | 東北支社 | 〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21 | 022-264-1923 |

| 会社名 | 事業所名 | 郵便番号・住所 | 電話番号 |
|--------------------|-------|--------------------------------|--------------|
| (株) 創研コンサルタンツ | 本社 | 〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22 | 018-863-7121 |
| (株) 総合技術コンサルタンツ | 東北支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-6-15 | 022-268-4191 |
| 創和技術(株) | 本社 | 〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7 | 018-863-4545 |
| 玉野総合コンサルタンツ(株) | 仙台支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-13-22 | 022-716-6646 |
| (株) 田村測量設計事務所 | 本社 | 〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3 | 023-642-6644 |
| 第一復建(株) | 仙台事務所 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20 | 022-722-3701 |
| (株) ダイエツ | 本社 | 〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53 | 0242-26-1253 |
| 大日コンサルタンツ(株) | 仙台事務所 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30 | 022-225-5626 |
| 大日本コンサルタンツ(株) | 東北支社 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35 | 022-261-0404 |
| (株) ダイヤコンサルタンツ | 東北支社 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1 | 022-263-5121 |
| 大和工営(株) | 本社 | 〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43 | 0233-22-2422 |
| (株) 地圏総合コンサルタンツ | 仙台支店 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 | 022-261-6466 |
| 中央開発(株) | 東北支店 | 〒984-0016 仙台市若林区蒲町東20-6 | 022-766-9121 |
| (株) 中央技術コンサルタンツ | 東北支店 | 〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-13-4 | 022-375-6787 |
| 中央コンサルタンツ(株) | 仙台支店 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27 | 022-722-2541 |
| 中央復建コンサルタンツ(株) | 東北支社 | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7 | 022-267-1459 |
| 中電技術コンサルタンツ(株) | 東北営業所 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-15 | 022-397-8173 |
| (株) 長大 | 仙台支社 | 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26 | 022-781-8628 |
| (株) 千代田コンサルタンツ | 東北支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2 | 022-214-6261 |
| (株) 東京建設コンサルタンツ | 東北支社 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17 | 022-222-8887 |
| 東京コンサルタンツ(株) | 東北支店 | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20 | 022-265-3891 |
| (株) 東建工営 | 本社 | 〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7 | 022-383-9811 |
| (株) 東光コンサルタンツ | 仙台支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-9-8 | 022-264-1578 |
| (株) トーニチコンサルタンツ | 東北事務所 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30 | 022-262-0243 |
| (株) ドーコン | 東北支店 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 | 022-225-2860 |
| 東邦技術(株) | 本社 | 〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13 | 0187-62-3511 |
| (株) 東北開発コンサルタンツ | 本社 | 〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33 | 022-225-5661 |
| (株) 東北構造社 | 本社 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 | 022-227-1877 |
| (株) 土木技研 | 本社 | 〒020-0839 岩手県盛岡市津志田南2-16-20 | 019-638-8131 |
| 日栄地質測量設計(株) | 本社 | 〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2 | 0246-21-3111 |
| (株) 日水コン | 東北支所 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 | 022-222-1101 |
| (株) 日本インシーク | 東北支店 | 〒980-6010 仙台市青葉区中央4-6-1 | 022-724-7530 |
| 日本工営(株) | 仙台支店 | 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11 | 022-227-3525 |
| (株) 日本構造橋梁研究所 | 東北支社 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20 | 022-713-6657 |
| (株) 日本港湾コンサルタンツ | 東北支社 | 〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5 | 022-215-9051 |
| 日本振興(株) | 東北支店 | 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10 | 022-291-3810 |
| (株) ニュージェック | 東北支店 | 〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2 | 022-301-7611 |
| パシフィックコンサルタンツ(株) | 東北支社 | 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1 | 022-302-3940 |
| (株) パスコ | 東北事業部 | 〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1 | 022-299-9511 |
| (株) 東日本建設コンサルタンツ | 本社 | 〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5 | 0246-63-6063 |
| (株) 福田水文センター | 東北営業所 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町3-6-18 | 022-224-1417 |
| (株) 福山コンサルタンツ | 東北支社 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17 | 022-262-0118 |
| 富士コンサルタンツ(株) | 仙台支店 | 〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20 | 022-395-6216 |
| (株) ふたば | 本社 | 〒963-1111 福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央592 | 0240-22-0261 |
| (株) 双葉建設コンサルタンツ | 本社 | 〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399番11 | 0233-22-0891 |
| (株) 復建エンジニアリング | 東北支社 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町11-11 | 022-267-2765 |
| (株) 復建技術コンサルタンツ | 本社 | 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25 | 022-262-1234 |
| 復建調査設計(株) | 東北支店 | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20 | 022-723-5830 |
| 三井共同建設コンサルタンツ(株) | 東北支社 | 〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3 | 022-225-0489 |
| 陸奥テックコンサルタンツ(株) | 本社 | 〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18 | 024-922-2229 |
| 八千代エンジニアリング(株) | 北日本支店 | 〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23 | 022-261-8344 |
| (株) 横浜コンサルティングセンター | 仙台支店 | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7 | 022-262-1493 |
| (株) 吉田測量設計 | 本社 | 〒020-0861 岩手県盛岡市仙北1-3-13 | 019-635-1740 |

編集後記

季節の経過はあっという間で、もう間もなくすると初霜や初氷、そして初雪の便りが各地から聞こえてくることでしょう。

いつ頃からだったのでしょうか、「な・ん・だ・か・なあー……」という悶々とした気持ちで日々を過ごしているうちに令和3年も駆け足で過ぎ去ろうとしています。

今年は1年遅れで東京オリンピック・パラリンピックが開催されましたが、開催の是非や無観客での試合など国民が一丸となって応援するような状況でないまま閉会した感があります。

また、夏の甲子園では東北学院高校が初出場し、初戦では強豪校を破りまさかの1回戦を突破したものの……完全燃焼しきれないまま終わってしまいました。

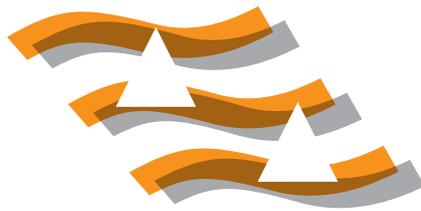
そんな令和3年、現時点での東北地方では、8月の下北半島豪雨があり記憶に新しいところですが、幸いにして人的被害を引き起こすような大災害は発生していません。せめて気候だけでもこの先も安定して年末を迎えたいと思っております。

最後になりますが、本誌にご執筆頂きました皆様には心より感謝申し上げます。

(令和3年9月 遠藤 康郎 記)

JCCA TOHOKU Vol.63

| | | | | |
|-----|--|------|------|------|
| 発行 | 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11 アーク仙台ビル TEL 022-263-6820 | | | |
| 編集 | 広報委員長 | 菊池透 | 副委員長 | 菊田博己 |
| | 副委員長 | 上野圭祐 | 広報委員 | 相澤達也 |
| | 広報委員 | 大友正樹 | 〃 | 樋口章大 |
| | 〃 | 大場秀行 | 〃 | 遠藤敦 |
| | 〃 | 長谷川悟 | 〃 | 海藤剛 |
| | 〃 | 真田広之 | 〃 | 遠藤康郎 |
| | 〃 | 高橋伸彰 | 〃 | 〃 |
| | 〃 | 池田崇 | 〃 | 〃 |
| 事務局 | 淀川政晴・小川みゆき | | | |
| 印刷 | ハリウコミュニケーションズ株式会社 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 TEL 022-288-5011 | | | |



.....明日への風、東北から.....

ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。